

高知	徳島	和歌山	石川	根室	長野	三重	長崎	兵庫	京都	東京	添粉付與應諾ノ府縣名
全	全	全	全	全	全	全	全	全	貸座敷娼妓	娼妓	全上稼業種類
郡	警察署分署又ハ郡町村役所	郡區役所又ハ警察署	所轄警察署	郡役所又ハ兵長役場	全	郡	全	所轄警察署	郡區役所又ハ警察署	郡區役所	全上發付ス可キ官署

佐賀	熊本	娼妓	所轄警察署
賀	本	娼	全
座敷娼妓	娼	妓	上

第四款 貸座敷及娼妓稼ニ係ル願届

○本達乙第百十一號 明治二十年十月一日 西南北堺岸和田警察署  
 貸座敷娼妓取締規則中願届書類ハ從來三通或ハ二通ヲ徴セシ成規ヲ改メ自今  
 指令ヲ要スル件ハ二通要セサルハ一通トシ區郡役所へノ通知ハ別紙雛形ニ準  
 據スヘシ

(雛形略ス)

第五款 驅煤院入院ノ娼妓治療ノ見込ナキ者處分方

○本達乙第百二號 明治廿年九月八日 西南北堺岸和田、牧方、和田、牧方署  
 今般府立大阪驅煤院へ左之通訓令アリタルニ付其診斷書之送致ヲ受ケタル片  
 ハ貸座敷娼妓取締規則第三十二條及同規則取扱手續第十二條ニ依リ處分スヘ  
 シ  
 衛第四號 明治二十年九月八日 府立大阪驅煤院  
 其院入院ノ娼妓ニシテ病症頑固等ニテ入院六ヶ月ニ至ルモ尙治療ノ見込ナク



到底娼妓稼ニ地へ難キト認ムルモノハ自今其院規則第二章第六條ニ準據シ其  
第四章第二十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

但入院六ヶ月ニ至ルモ不日治癒ノ見込アルモノハ尙治療ヲ施シ毎月末壹人  
別限其事由ヲ記載シ本府第二部衛生課へ報告スヘシ

右訓令ス

### 第三章 興行

#### 第一款 劇場取締規則中改正

(前編第三編九  
十四丁ニ在リ)

●府令第六十七號 明治二十年五月十九日

明治十七年(四月)甲第二十一號布達劇場取締規則第七條中午後第一時トアル  
ヲ正午十二時ト改メ十一時トアルヲ十二時ト改メ同第九條中十四人トアルヲ  
八人ト改ム

参照 (訂正文)

第七條 興行ハ正午十二時ヨリ午後第十二時ヲ限ルヘシ

但非常烈風等ノ節ハ臨時停業ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 一坪ニ付八人<sup>十二歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ</sup>ノ割合ヲ以テ看客ノ員數ヲ定  
メ管轄警察署ニ届出承認ヲ受クヘシ其定員ハ場内見易キ場處ニ揭示スヘ

但二階棧敷ハ構造ノ模様ニ依リ危険ノ虞アリト認ムルトキハ本條ノ割  
合ヲ減セシムルコトアルヘシ

●府令第百十四號 明治二十年十一月廿六日

明治十七年甲第二十一號布達劇場取締規則中左ノ通改正追加ス

#### 第五條

五 遊歩場又ハ飲食場等ヲ設ケントスル片ハ其着手前

#### 第十一條

十 飲食物ノ呼賣ヲ爲スコト

十一項中二十分トアルヲ十五分ト改ム

第十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十二條 劇場内ニ於テハ時宜ニ依リ飲食物ヲ制限シ若クハ禁止スルコトアルヘシ

第十二條ヲ第十三條ト爲シ以下順次繰下ク

第十五條 劇場ヲ他ノ集會等ニ使用センスル片ハ所轄警察署へ届出認可ヲ  
受ケ本則第七條及第十一條第七項乃至第十項ヲ遵守スヘシ

参照

#### 第五條



五、規則第十一條第十項ノ場處ヲ設ケントスルハ其着手前  
第十一條

十左ノ場處ノ外劇場内ニ於テ着客ニ飲食セシムル事  
但蒸氣ハ此限ニテナシ  
一場内便宜ノ場所ヲ撰ビ之ヲ圖書シテ設ケタル食室  
一庭園等場外ニシテ便宜ノ場處ニ設ケタル飲食店  
十一幕間ハ長クモ二十分間以上ニ置ル事

第二款 寄席取締規則中改正 (前編第三編百一丁ニ在リ)

●府令第七十四號 明治二十年六月十四日

明治十五年(九月)甲第九十三號寄席取締規則第四條中十四人トアルヲ八人ト改メ同第八條中午後第一時トアルヲ正午十二時ト改メ十一時トアルヲ十二時ト改メ

參照 (訂正文)

第四條 一坪ニ付八人<sup>十二歳未満者ハ二人ヲ以テナシ</sup>ノ割合ヲ以テ着客ノ員數ヲ定メ管轄警察署ニ届出承認ヲ受ケ<sup>三歳未満ハ算入セス</sup>ヘシ其定員ハ場内見易キ場所ニ掲示スヘシ  
但二階樓敷ハ構造ノ模範ニ依リ危險ノ虞アリト認めルルハ本條ノ制

合ヲ減セシムルコトアルヘシ

第八條 興行ヲ爲ス時間ハ正午十二時ヨリ午後十二時ヲ限ルヘシ

○府令第百十二號 明治二十年十一月廿六日

明治十五年當府中第九十三號布達寄席取締規則中左ノ條改正追加ス

第九條

七、飲食物ノ呼賣ヲ爲ス事

第九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十條 寄席ニ於テハ時宜ニ依リ飲食物ヲ制限シ若クハ禁止スルコトアルヘシ

第十條ノ第十一條ト爲シ以下順次繰下ク

第十三條 寄席ヲ他ノ集會等ニ使用セントスルハ所警察署ヘ届出認可ヲ受ケ本則第八條第九條第六項第七項ヲ遵守セシムヘシ

參照 訂正文

- 第九條 寄席ニ於テハ左ノ諸項ヲ禁ス
- 一 演劇ニ等シキ所作ヲ爲ス事
- 二 勸善懲惡ノ趣意ヲ失スル事
- 三 風俗ヲ害スヘキ猥褻ノ所爲ニ涉ル事



- 四 開場中藝人等看客ノ座席へ往來シ又ハ看客ヲ樂屋ニ入ル、事
- 五 看客へ闇ヲ賣リ又ハ其他ノ名義ヲ以テ出錢ヲ促ス事
- 六 定員外ノ看客ヲ入ル、事
- 七 飲食物ノ呼賣ヲ爲ス事

第三款 觀物興行場并遊覽所取締規則中改正追加

(前編第三編百六十三丁ニ在リ)

●府令第百十三號 明治二十年十一月廿六日

明治十五年當府甲第九十四號布達觀物興行場並遊覽所取締規則中左ノ通改正追加ス

- 第五條ニ左ノ二項ヲ追加ス
- 五 飲食物ノ呼賣ヲ爲ス事
- 六 看客ノ需メニアラサル飲食物ヲ供スル事
- 第五條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
- 第六條 觀物興行場並遊覽所ニ於テハ時宜ニ依リ飲食物ヲ制限シ若クハ禁止スルコトアルヘシ
- 第七條 觀物興行並遊覽所ヲ他ノ集會等ニ使用セントスル片ハ所轄警察署へ届出認可ヲ受テ本則第五條第五項ヲ遵守セシムヘシ

第六條ヲ第八條ト爲シ以下順次繰下グ

参照 訂正文

第五條 觀物興行場並遊覽所ニ於テハ左ノ諸項ヲ禁ス

- 一 人造物ヲ天造物ト稱シ又ハ事實ニ相違シタルコトヲ揚言スルコト
- 二 看板ト實物ト相違スルコト
- 三 風俗ヲ害スヘキ所爲又ハ不具異様ノ人身及臭氣アル腐敗物
- 四 木戶錢又ハ見料ノ外看客ニ對シ闇ヲ賣リ又ハ他ノ名義ヲ以テ出錢ヲ促ス事
- 五 飲食物ノ呼賣ヲ爲ス事
- 六 看客ノ需メニアラサル飲食ヲ供スルコト

第四款 諸興行取扱手續及雜件中改正 (前編第三編百六十三丁ニ在リ)

○本達乙第百二十八號 明治二十年十二月二日 警察署 水上署

明治十九年(十二月)本達乙第六十二號達第二項中十五分ノ下(間以下二十分)迄ノ十五字及不揃ノ爲ノ下(又ハ看客喫飯ノ爲メ)ノ九字並第三項ヲ削除ス

参照 (訂正文)

本乙第六十二號 明治十九年十二月四日 警察署 水上署

府令第四十一號及第四十二號ヲ以テ劇場及寄席取締規則中改正相成候ニ



付テハ左ノ諸項心得ヘシ

- 一 定員ハ機敷土間第一區畫アル毎ニ其人員ヲ定メテ各其場處ニ揭示セシメ且定員ヲ記入シタル看客席ノ畧圖ヲ監臨席ニ掲出セシムヘシ
- 一 演劇幕間ハ十五分以上ニ亘ルコトヲ申出タル片ハ懸題替等ノ際道具立不揃ノ爲メ其他止ヲ得サル場合ニ限リ相當ノ時間ヲ限リテ認可シ猥リニ延長セシメサル様注意スヘシ

### 第五款 官有地内諸興行願取扱

○二丙第二九號 明治二十年十月五日 各署へ

官有地内ニ於テ社寺境内ニ包含ス諸興行致度旨願出ツル者アル片ハ豫メ土地拜借ヲ其筋へ願濟ニアラサレハ興行不相成義ニ候條爲念此段及御通知候也

○二丙第九六號 明治二十年十月廿二日 各署へ

官有社寺内ニ於テ諸興行ヲ爲ス者ハ借地之義豫メ其筋ノ許可ヲ得セシメ度旨過般及御通知置候處其祭日法會等ニ際シ一時些少ノ範圍ヲ爲シ見物等興行スルニ於テハ川段借地願ノ手續ヲ要セス神職僧侶ニ於テ取締不都合無之様取斗フヘク旨其筋ノ決議ニ相成候條此段及御通知候也

## 第四編 衛生

### 第一章 飲食物

#### 第一款 飲食物取締規則中削除 (前編第四編 一丁ニ在リ)

●府令第六十五號 明治二十年五月十四日

明治十九年(六月)當府甲第百三號飲食物取締規則布達文中施行スノ下但以下三十一字ヲ削除ス

参照

飲食物取締規則左ノ通相定明治十九年七月十五日ヨリ施行ス(但當分ハ内大阪四區接續町村堺區及ヒ奈良市街ヲ以テ施行ハ區域トス)

#### 第二款 飲料水營業取締規則中改正 (前編第四編十 六丁ニ在リ)

●府令第三十八號 明治三十年三月十二日

明治十八年(八月)甲第七十號飲料水營業取締規則中第三條ヲ左ノ通改正ス

- 第三條 河水ヲ販賣セントスルモノハ左ノ各所ニ於テ許可ヲ得タル濾過所ニ於テ濾過シタルモノニ限ルヘシ
- 一 澗河筋天橋橋上流ノ河岸
- 一 中津川筋字嬉々崎上流ノ河岸



参照

第三條 河水汲取ノ場ハ左ノ箇所ニ限ルヘシ

一 淀川筋天満橋上流

二 中津川筋字嬉ヶ崎

第二章 傳染病豫防ニ關スル制規

第一款 虎列刺病流行ノ際古着襪等消毒ヲ受ケシ

モノ輸出入差許

●府令第四十九號 明治二十年四月

虎列刺病流行ニ際シ古着襪紙屑古綿等輸出入ヲ禁止スルノ成規ニ候處自今當府ニ於テハ西成郡天保町消毒所ニ於テ主務官吏ノ指示ニ從ヒ消毒ヲ受ケタルモノニ限リ特ニ輸出入スルヲ得

第二款 痘瘡病豫防救治ニ從事スル者撰定方

○本達乙第十九號 明治二十年二月廿二日

警察署

痘瘡病發動ニ際シ豫防救治ニ從事セシムル者ハ必ス天然痘瘡又ハ規則ノ種痘ヲ行ヒ感染ノ虞無之者ニ限ルヘシ

第三章 賣藥規則外制劑取締規則中追加

(前編第四編百五十八丁ニ在リ)

●府令第八十三號 明治二十年七月十四日

明治十八年(十二月)當府甲第一百十六號布達賣藥規則外製劑取締規則第三條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但免許ヲ得タル後其制劑ノ藥味ヲ加減シ若クハ劑名ヲ變更セントスル片ハ第一號書式ニ準シ願出允許ヲ受クヘシ

第四章 汚臭物

第一款 屎尿汲取運搬取締規則

●府令第八十六號 明治廿年七月三十日

屎尿汲取運搬取締規則別冊之通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス

但明治十三年七月當府天第八號布達ハ本則施行ノ日限リ廢止ス

屎尿汲取運搬取締規則

第一條 此規則ハ大阪堺奈良ノ市街及該市街ト人家接續ノ町村ニ限リ施行スルモノトス

第二條 屎尿ヲ汲取運搬スル時間ハ四、五、六、七、八、九、ノ六ヶ月ハ午前八時十、十一、十二、一、二、三、ノ六ヶ月ハ午前九時迄ニ限ルヘシ

但當該官吏ノ命令ニ由リ汲取運搬スルモノハ此限ニアラス

第三條 屎尿ノ容器ハ別紙畧圖ノ如キ構造ニシテ臭氣汚汗等ノ豪モ漏泄セサル様密閉シ得ヘキ蓋アル擔袖ニ限ルヘシ



第四條 汲取器具類ノハ別ニ蓋アル桶等ニ入レ決シテ汚レタルモノヲ其儘携フヘカラス

第五條 尿尿ヲ容レタル器ヲ運搬スル舢舨車ハ官ノ認可ヲ得タル場所ノ外舢舨又ハ駐車スルヲ得ス

第六條 舢舨又ハ駐車場ヲ定メントスルモノハ其位置間數及舢舨車ノ員數等ヲ詳記シ該地所轄ノ警察署ヘ願出認可ヲ受クヘシ舢舨車ヲ増減シ若クハ廢場セメントスルハ其旨届出ツヘシ

第七條 認可ヲ得タル舢舨又ハ駐車場ト雖モ第二條ノ時限ヨリ一時間ヲ過キ舢舨駐車スルヲ得ス

第八條 尿尿汲取ノ際厠圍及其周圍ヲ不潔ニシ又ハ汲取口ヲ開放シ置ガ如キ所爲アルヘカラス

第九條 尿尿汲取運搬ノ際過テ道路等ヲ穢シタルハ速ニ掃除スヘシ

第十條 尿尿ノ容器ハ專ラ清潔ニナスヘシ若シ當該官吏ニ於テ不潔又ハ臭氣汚汁等漏洩ノ虞アリテ其用ニ堪カクモノト認ムルハ使用ヲ禁スルヲアルヘシ

第十一條 此規則第二條第三條第四條第五條第六條第七條及第九條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處セラルヘシ

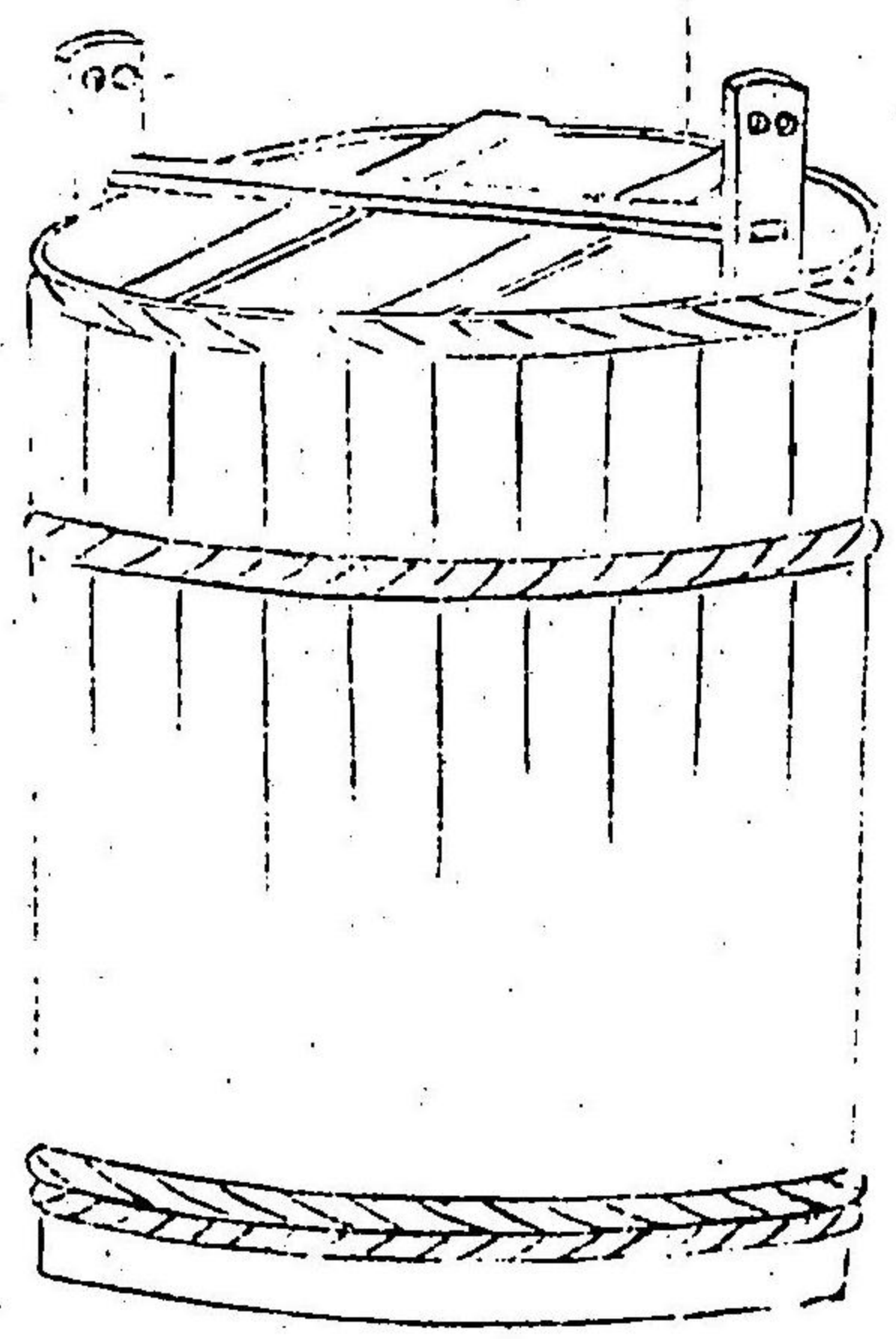
附 則

一 在來ノ溜舢及ヒ舢中ニ裝置スル溜桶ハ臭氣ノ漏泄セサル様蓋ヲ設ケ密閉シタル分ニ限リ來ル明治二十一年十二月三十一日限リ使用スルヲ得

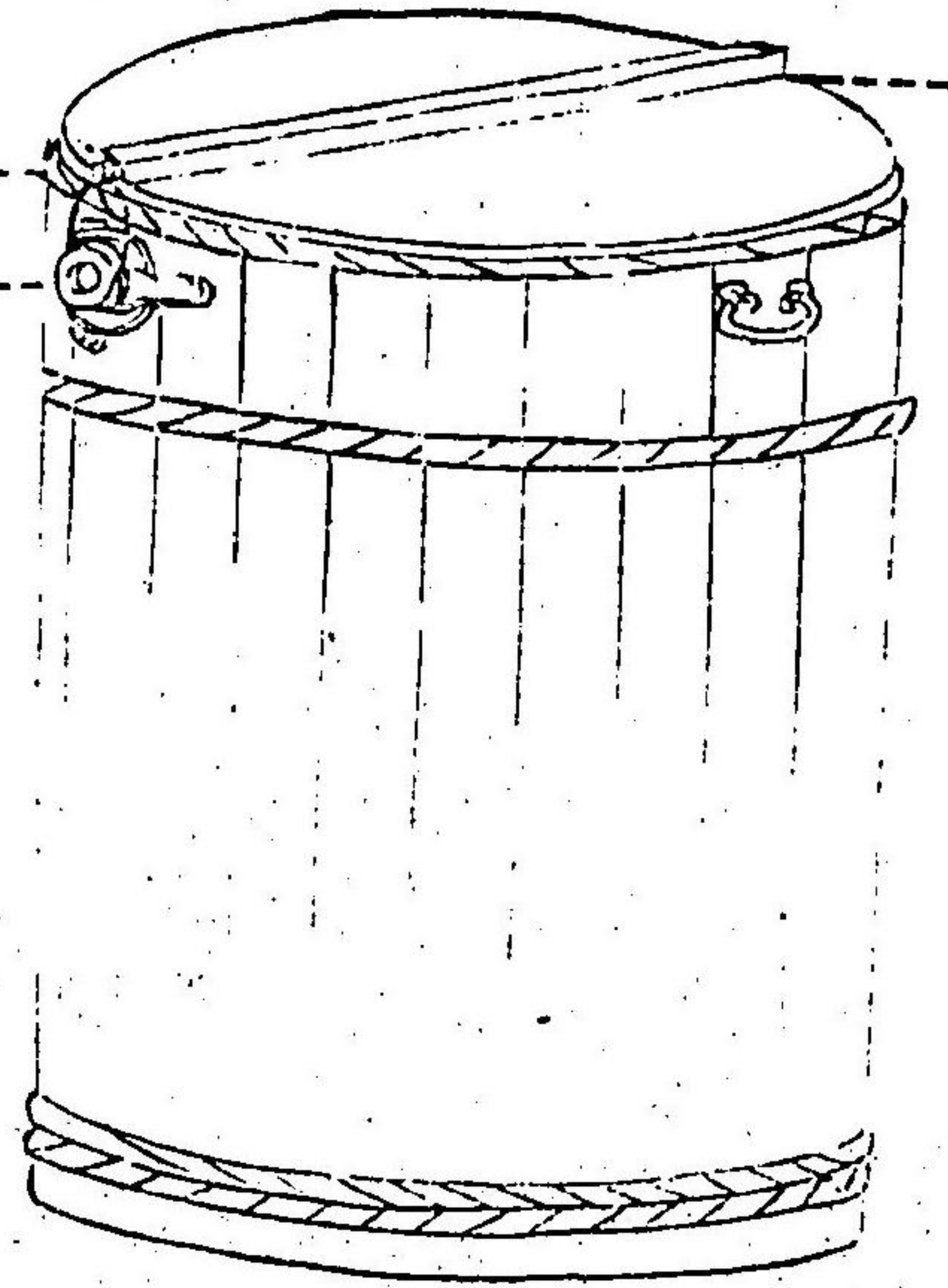
廿年府令第九十七號ヲ以テ附則追加



蓋ヲ壓着セシムル門ナリ



此ハ蓋ト桶トノ合口ヲ密着セシムル爲メ蓋ノ周邊ニ麻ノ組紐又ハ其他ノ彈力アルモノヲ鎮着セシモノナリ



此一方ハ通例ノ掛金ト壺金ナリ

此ハ東京下谷區茅町壹丁目八番地櫻井乃介專賣特許ニ係ル蓋締金物カ又ハ蓋締リヲ密ナラシムル他ノ金物カヲ用ユヘシ

區部ノ六署へ照會

○事丙第九一一號 明治二十年九月八日

尿尿繫船又ハ駐車場願出タル片ハ實地調査之上飲料水運搬船定繫場日用必需品ノ洗滌場ヲ退ケ而シテ可成公害ナキ場所ヲ御撰定認可相成度此段及御照會候也

### 第二款 肥料貯藏場取締規則

●府令第六六號 明治二十年十月廿五日

肥料貯藏場取締規則別冊之通相定ノ明治廿一年五月一日ヨリ施行ス

#### 肥料貯藏場取締規則

第一條 此規則ハ大阪堺奈良市街及該市街ト人家接續ノ町村ニ於テ施行スルモノトス

第二條 此規則ニ於テ肥料ト稱スルハ尿尿干餾塵芥及ヒ動物ノ骨肉其他肥料ニ供スルモノニシテ惡臭ヲ發スヘキモノヲ云フ

第三條 肥料貯藏場ヲ設ケントスルモノハ其肥料ノ種類ヲ明記シ該場ノ構造圖面及四隣三十間以内ノ地主家主并ニ現住者ノ承諾証ヲ添へ所轄警察署へ出願許可ヲ受クヘシ但本文ノ手續ヲ盡スト雖モ公害アリト認ムル片ハ之ヲ許可セズ其不承諾者アリト雖モ公害ナキト認ムル片ハ許可スルコトアルヘシ

第四條 貯藏場ハ可成人家稠密ナラサル場所ヲ撰ムヘシ但建物ヲ設ケ難キ肥



肥料類貯藏場ハ人家并ニ飲用ノ井泉河流及國道縣道鐵道ヲ距ル六拾間以上ノ場所ニアラザルハ設ケルコトヲ許サス

第五條 貯藏場ノ建物ハ專ラ惡臭ノ漏洩ヲ防クヘキ構造ヲナスヘキハ勿論第四條但書ニ於テ當ル貯藏場ハ必ズ其周圍ニ高サ一丈以上ノ圍ヲ設ケヘン

第六條 貯藏場ノ許可ヲ得タルモノハ左ノ標札ヲ該場ノ門戸ニ掲ケヘン

長三尺五寸

巾八寸	何町何番地
肥料貯藏場	持主 何 某
明治何年何月何日許可	

第七條 貯藏場ノ建物ヲ改造セントスルモノハ其圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヘ出願許可ヲ受クン建物の三分ノ二以上ノ修繕ヲナスルモ亦同シ

第八條 貯藏場ノ賣買讓與ハ双方連署シ廢場及ヒ屬籍住所氏名ヲ轉變シ又ハ代替ヲ爲シタルキハ本人ヨリ十日以内ニ該場所轄警察署ヘ届出ヘン

第九條 貯藏場ノ構造不完全ト認ムル片ハ修繕又ハ改造ヲ命スルコトアルヘン

第十條 營業上ノ都合ニ依リ一時肥料ヲ貯藏場外ニ差置モノニシテ二十四時

間以上ニ涉ルモノハ其時日ヲ期シ所轄警察署ヘ出願許可ヲ受クヘン但日數五日ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條 此規則第三條第五條第六條第七條第八條第十條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處セラルヘン

附則

一現在ノ肥料貯藏場ハ明治廿一年四月卅日限り届出認可ヲ受クヘン

一農家ニ於テ自用ノ肥料ヲ貯藏スルモノハ本則ヲ適用セスト雖モ公害アリ

ト認ムル片ハ移轉又ハ構造ノ改良ヲ命スルコトアルヘン



第五編 河港

第一章 淀川通船取締規則

●府令第六十二號 明治廿年五月十二日

淀川通船取締規則左之通相定メ來六月一日ヨリ施行ス

但明治十三年天第六十四號布達ハ同日限リ廢止ス

淀川通船取締規則

第一條 淀川通船ト稱スルハ大坂伏見間淀川筋ニ於テ旅客物貨ヲ搭載シテ航  
運スル日本形船ヲ云フ

第二條 通船ノ重量吃水点ハ舷ノ上端ヨリ六寸ヲ度トス其以内ニ侵水セシム  
ヘカラス

第三條 乗客ハ一坪ニ付六人ヲ超ユヘカラス  
但十二歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三歳未満ノ者ハ算入セス

第四條 乗客ノ賃錢ハ同業者協議ノ上之ヲ定メ安治川水上警察署ヲ經テ當廳  
ニ届出テ認可ヲ受クスレ私ニ認可ノ賃錢ヲ増減スルヲ得ス

第五條 營業者ハ通船ノ使用以前ニ別紙離形ニ據リ定員並賃錢表ヲ調製シ安  
治川水上警察署ニ願出記號及檢印ヲ受メ之ヲ船内見易キ場所ニ釘付スヘシ  
使用ヲ廢シタル并ハ速ニ消印ヲ乞ヒ改氏名轉任若クハ代替ヲ爲シ又ハ記号

二十年七月府令  
第八十二號ヲ以  
テ第二條中改正



檢印アル他人ノ通航ヲ讓受ケタル片ハ之ヲ書替更ニ檢印ヲ受クヘシ但讓受ニ係ル場合ハ授受者双方ヨリ申出ツヘキモノトス

第六條 船體脆弱ニシテ危險ノ虞アルモノハ記号檢印ヲ與ヘス既ニ與ヘタルモノト雖モ取消スコアルヘシ

第七條 通航ニハ乘客名簿ヲ備ヘ置キ族籍姓名年齢行先地及乗船上陸ノ地名ヲ記シ發着ノ都度安治川水上警察署京橋分署ニ差出シ認印ヲ請フヘシ

第八條 他船ト航進ノ競争ヲ爲スヘカラス

第九條 通航互ニ行逢フ片ハ右ニ避クヘシ此場合ニ於テハ上リ船ヨリ先ツ避讓スヘシ川床淺ク若クハ川中狹クシテ相避クルコト能ハサル場合ハ上リ船ニ於テ暫ク停ルカ又ハ退キテ航路ヲ讓ルヘシ

第十條 前船餘航シ後船疾航セントスル片ハ其意ヲ告知シ前船ハ左ニ避ケ後船ハ右ヲ通過スヘシ

第十一條 大風雨又ハ深霧ノ際ハ時々懸聲ヲ爲シ又ハ適宜ノ信號ヲ鳴ラシテ衝突ヲ豫防スヘシ

第十二條 夜間航行ノ際ハ適宜ノ点燈ヲ爲スヘシ

第十三條 川水ノ際難波橋下流量水標六尺以上ニ至ル片ハ航行スヘカラス

第十四條 火藥其他劇發質ノ物品ヲ搭載シタル船ニ旅客ヲ乗ラシムヘカラス

第十五條 航行中橋梁水列杭等ニ觸レテ之ヲ毀損シタル片ハ着船ノ際安治川水上警察署京橋分署ニ届出ツヘシ此場合ニ於テハ其毀損ヲ償ハシムルコトアルヘシ

第十六條 營業者ハ組合ヲ結ビ規約ヲ設ケ且營業者中ヨリ正副取締人各一名ヲ公撰シ安治川水上警察署ヲ經テ當廳ノ認可ヲ受クヘシ組合ニ入ラサル者ハ營業ヲ爲スコヲ得ズ

第十七條 取締人ハ組合ニ關スル事務ヲ取扱ヒ營業者ヲシテ犯則ナカラシムル様注意シ且組合公共ノ便益ヲ圖ルヘシ副取締人ハ取締人ヲ補助シ其事故アル片ハ代テ事務ヲ取扱フヘシ

第十八條 第五條ノ願届ニハ取締人ノ加印ヲ受クヘシ

第十九條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第十三條第十四條ニ違フ者及第九條第十條第十一條第十二條ニ違ヒテ衝突ヲ爲シタル者並第十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス



乗客定員並賃錢表									
印檢號記	賃							基所ヨリ基所マデ	何人
	全	全	全	全	全	全	全		
	何歳以下ハ申受ケス	何歳以下何歳ハ半額トス							
	營業者ノ族籍名								

縦 五 寸  
横 七 寸

○府令第六十三號 明治二十年五月十三日  
 本年府令第六十三號澁川通船取締規則第八條第九條第十條ハ他ノ川筋ノ航行  
 スル諸艇ニモ之ヲ適用ス



### 第六編 道路

#### 第一章 道路

##### 第一款 郡部道路取締方

○訓示第二號 明治二十年二月十四日

郡部警察署

街路取締規則改正以來市街ニアラサル道路ニ關シテハ特ニ取締規則ノ設ケナシト雖モ之ヲ以テ何事ヲ爲スモ問ハサルモノト爲スヘカヲサルハ勿論ナリ故ニ道路ノ通行ナリ清潔ナリ又保存ナリ宜ク相當ノ取締ヲ爲シテ實際上不都合ノ所爲ナカラシムヘキハ論ヲ俟タズ殊ニ左ノ諸件ノ如キハ元來私擅ニ爲シ得ヘキモノニアラサルヲ以テ舊慣ニ依リ出願スル者アル片ハ街路取締規則ノ意ヲ酌テ之ヲ許否シ若シ出願セスシテ之ヲ爲ス者アル片ハ諭示シテ其手續ヲ爲サシムヘシ其他ハ出願スル者アルモ只不都合ノ所爲ナキ様注意ヲ加テ書面下戻スヘシ

工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事

車馬通行止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事

神輿地車屋臺運物等ヲ出ス事

道路ニ屋臺店又ハ發賣張ヲ設ケル事

右ノ外著シク道路ノ部分ヲ使用スル事

##### 第二款 四區接續町村大下水石蓋破損修繕通知區別

○事丙第二〇四號 明治二十年三月三日

四區接續町村大下水石蓋等ニ破損ヲ生シタル片修繕方ハ街路ニ沿フタルモノハ郡區役所ノ主管ニシテ街路ヲ横キル部分ノミ土木課ノ主管ニ有之候趣ニ付自今破損通知方右様御了承ノ上御取計相成度此段申進候也

##### 第三款 淤泥塵芥放棄者取締

○本達乙第九十二號 明治二十年七月十六日

區部水警察署

淤泥塵芥等ヲ街路ニ布キ若クハ河川中へ放棄スル等ノ義ハ各取締規則有制裁ノ事故ニシテ夫々注意モ可有之候得共近來一層此行爲不勘哉ニ相聞候條右ハ必スシモ一定ノ場處へ放棄候様嚴重取締ル可シ



### 第七編 建築

#### 第一章 長屋建築取締規則中改正

(前編第七編  
一丁ニ在リ)

●府令第九十三號 明治二十年九月十日

明治十九年五月甲第七十五號布達長屋建築規則第十三條敷地ノ下へ(土臺石ノ上端)ノ六字及ヒヨリノ下へ(軒高サ九尺以上ノ)七字ヲ増補ス

参照 (訂正文)

第十三條 建家ノ敷地土臺石ノ上端ヨリ軒高サ九尺以上床板迄ノ高サ一尺五寸以上タルヘ

#### 第二章 製造場建設落成検査

○本達乙第九十六號 明治廿年八月十二日

警察署 水上等  
ヲ除ク

自今諸製造場建設願ヲ許可シタル片ハ其時々主務課ヨリ通報可致落成ノ上ハ願人ヨリ届出ツル等ニ付直ニ警部出張検査候義ト心得ヘ

### 第八編 營業

#### 第一章 古物商及質屋

##### 第一款 古物商取締細則中削除

(前編第八編五丁ニ在リ而シテ  
第四書式第三三第卅六書  
式第廿九トナリテ止ム)

●府令第十九號 明治二十年二月三日

明治十七年<sup>十二月</sup>甲第九十號布達古物商取締細則中左ノ通削除

- 一 雛形并書式第五項
- 一 第三

但第四書式以下順次繰上ク

参照

一 古物商免許願及住所ヲ移轉シ更ニ看板ノ檢印ヲ請フ片ハ書式ニ從ヒ月長ノ證明書ヲ添へ出願シ及後見人居街路露店願ハ與印ヲ受ケ差出ス可シト雖モ其他ハ戶長ノ與印ヲ要セス

第三

原籍證明書

何、郡、町、何番地身分  
 何、區、村、何番地身分  
 (寄留何々) (原籍) (家族雇人モ之ニ準シ何誰) (家族何々又ハ雇人ト認ス)



右ハ今般古物商ノ内何商御免許出願致度候ニ付原籍御証明被成下度候也  
年月日  
何 誰 年 誰 齡  
何 誰 印

前書何誰當町村在籍(又、寄留)之者ニ相違無之候也

但、前科無之、又、左ノ前科有之候

(明治何年何月何日何罪ニ依リ何  
裁判所ニ於テ何々ニ處セラル)

何、區長又ハ何、町、戸長

何、誰、印

大阪府何警察署御中

第二款 無免許質屋類似ノ營業者取締

○本達乙第三十三號 明治二十年三月五日

區部警察署

近來種々ノ名義ニ託シ無免許ニテ質屋類似ノ營業ヲ爲スモノ頻々増加セシヤニ相聞ヘ候處是等ハ漸次免許營業者ノ衰頽ヲ招クニ止ラス或ハ其奸曲ノ弊ハ治安公益ヲ害スルニ至ルヘキモノナレハ此際充分探偵ヲ遂ケ是等ノ輩ヲ發見スルニ於テハ懇篤説諭シ免許ヲ受ケシメ其情狀ニ依リテハ相當處分スル等勗メテ此弊ヲ芟鋤スヘシ

第三款 三商事務取扱内則中改正

前編第八編九  
十一丁ニ在リ

○本達乙第四十八號 明治二十年四月八日

第二課 水上署  
警察署 ヲ除ク

明治十九年三月本甲第四十四號達三商事務取扱内則中左ノ通改正追加ス

第二條 各署長ハ派出所請巡查ヲシテ戸口調査受持ノ區畫ニ從ヒ(派出所ニ  
回受持區  
ニ從フ)分擔セシメ第三章ニ定ムル調査ニ從事セシムヘシ(派出所ニ  
キ署ハ巡

第二十七條 三商營業者ノ舉動ハ擔任巡查ニ於テ常ニ注意ヲ怠ルヘカラス

第三條 左ノ但書ヲ追加ス  
但必要トスル場合ハ略服ヲ着用セシメ派遣スルコトヲ得

参照

第二條 各署長ハ巡查中ニ三商掛專務ヲ命シ第三章ニ從ヒ調査ニ從事セ

シム可シ尤郡部○身根崎天王寺堺奈  
○各署ニ於テハ本分署別ニ專務員ヲ置カ

現時第三課



ス各受持巡查ヲシテ擔任調査セシムルヲ得  
(團長ヲ施シタル數字ハ二十年三月本達乙第廿七號ヲ以テ追  
加ニ係ル消滅ニ屬シタ  
ルモ參照ノ爲ニ録ス)

但調査ニ關シ探偵ヲ要スル場合ハ零服ヲ着用セシメ派遣スルヲ得  
第三條 第三部長及各署長ハ前條ノ外便宜部下ヲ派遣シ調査セシムルヲ得  
ヲ得ヘシ  
但必要トスル場合ハ零服ヲ着用セシメ派遣スルヲ得

第廿七條 三商掛巡查ハ常ニ營業者ノ舉動ニ注目スヘシ  
(舊保)

○本達乙第七十三號 明治二十年六月十七日

第二課  
警察署

明治十九年三月本甲第四十四號達三商事務取扱内則第二書式但書ノ次へ左ノ通  
追加ス

郡部警察署ニ於テハ但書左ノ例ニ據ル

但看板ニ本書ノ記號ヲ付シ且所轄戸長役場ニ届出ツヘシ

參照

第二

何警第何號

(何警ハ其署頭字トス以下倣之)

割 印

書面之趣免許候事

(免許並認可ヲ一紙ノ願書ニテ提出シタル片ハ(書面ノ趣)册届候事ト記シ行商ナル片ハ但書ニ係札ノ二字ヲ加フ)

但看板ニ本書ノ記號ヲ付スヘシ

現時第三課

全

二十年本達乙第  
五十八號及七十  
七號ヲ以本手續  
中改正

郡部警察署ニ於テハ但書左ノ例ニ據ル

但看板ニ本書ノ記號ヲ付シ且所轄戸長役場ニ届出ヘシ

第四款 古物品觸配布手續及全商人員取調方

○本達乙第五十五號 明治廿年五月二日

第二課 水上署  
警察署 ヲ除ク

品觸配布手續左ノ通相定ム

古物商  
買居品觸配布手續

第一條 品觸ハ每週一回本部第二課ヨリ各本署へ送付ス其分署ニ係ルモノハ  
各本署ヨリ速ニ傳送スヘシ

第二條 各本分署ニ於テ品觸ノ送付ヲ受ケタル片ハ速カニ受持巡查ヲシテ古  
物商賣屋各營業者へ配賦セシムヘシ

但古金銀ノ科目アル品觸ハ銀行及ヒ銀行類似ノ會社へモ配付スヘシ

第三條 夜間ハ品觸配付ヲ爲ス可カラス  
但特ニ至急ノ配付ヲ要スルモノハ此限リニアラス

第四條 巡查品觸ヲ配付スルニ丁リ營業者ニ渡スヨリ得サル片ハ其住所ニ於  
テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡スヘシ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡スヨリ得サル片  
ハ便宜其組合ノ正副頭取又ハ組頭ニ渡シ置キ配付ノ手續ヲナサシムヘシ

第五條 巡查品觸ヲ配賦シタル片ハ表式(書式)ニ從ヒ記號及日時ヲ記入シ受







「書式第二」此用紙ハ品觸ト共ニ第二課ヨリ各署(分署)ニ送付スルモノトス

品觸第「何」號

署長認印

送致高「何々」部

内譯

署備付

巡查派出所同

古物商頭取

古物商

質屋

銀行及類似會社

明治「何」年「何」月「何」日午「前」「后」「何」時

明治「何」年「何」月「何」日午「前」「后」「何」時

明治「何」年「何」月「何」日午「前」「后」「何」時

前一週間内増減

○——「主任官認印」

「何」部

「何々」部

「何」部

「何々」部

「何々」部

「何々」部

本部第二課發

何々「分」署着

配付畢

増

減

巡查派出所

古物商

質屋

銀行及類似會社

計

明治「何」年「何」月「何」日

「何」

「何」

「何」

「何」

「何」

何警察署「印」

「或ハ」何分署「印」

○本達乙第七十五號

明治二十年六月廿一日

警察署水上署

品觸配付ニ付古物商質屋人員左項ニ準據シ精確取調ヘ報告スヘシ

注意

- 一 該調査方ハ既ニ第二課ヨリ再度照會及ヒシモ取調疎漏ノ爲メ時々甚シキ差異ヲ生スル尙モ有之取扱方混雜ヲ來スノキナラズ經濟上不都合少ナシトセス依テ今回ハ現ニ第十四號品觸ノ配付數ニ據リ確實ニ調査シ其配付濟報告ト共ニ相違ナク進達アルヘシ
- 一 該調査ハ各本分署ヲ區別シ尙古物商質屋ヲ分記スヘシ

現時第三課



現時第三課

一 古物商ニシテ質屋ヲ兼テ質屋ニシテ古物商ヲ兼タルモノハ元ト二人ニア  
ラサルヲ以テ双方ニ加算スヘカラス渾テ一人トナシ共質屋ノ部ニ算入ス  
ヘシ

該調査ハ將來配付スヘキ部數ノ基軸ニシテ爾後每週増減ノ報告ヲ爲スヘ  
キハ取扱手續第七條ニ規定スル處ナリ若シ疎漏アルカ爲メニ過剩ヲ生ス  
ルモ其費用ハ支出スヘキノ途ナキヲ以テ深ク注意ヲ加フヘシ

○本達乙第九十號 明治二十年七月十五日

警察署水上署

品觸配付方ニ關シ必要ノ義有之候條古物商中一種ノミノ業ヲ營ム者ノ人員本  
分署ヲ別チ各業毎ニ取調至急第二課ニ報告スヘシ

但以後増減ヲ生シタル片ハ其都度同様報告スヘシ

### 第五款 古物輸入ノ所轄署ノ檢閱ヲ經タル府縣名

○三丙第四六八號

明治廿年十一月十七日

各警察署

舊聯合府縣(京都府)及ヒ朽木、青森、山梨、德島、茨城各縣ノ古物商ニシテ當府  
下ヘ古物ヲ輸入スル片ハ該目錄ヘ所轄警察本分署ノ檢閱ヲ經タル証印押捺ノ  
筈ニ有之候條御取扱ノ際右証印ノ有無御取調相成度此段爲念及御照會候也

### 第二章 宿屋

#### 第一款 宿屋取締規則中改正

(前編第八編百二  
十三丁ニ在リ)

●府令第七十七號 明治二十年六月二十三日

明治十九年府令第六十七號宿屋取締規則中左ノ通改正ス

第十五條「スヘカラス」ノ五字ヲ左ノ數字ニ改ム

シ又ハ客ヲ誘引シ來リタル者ニ種々ノ名義ヲ以テ金錢物品ヲ給與スヘ  
カラス

第二十五條「町村」ノ下ヘ「並堺區奈良」ノ五字ヲ挿入シ且左ノ但書ヲ加  
フ

但事情ニ依リ各種類ヲ併セテ一組合ト爲スコトヲ得

第四十八條 ノ次ヘ左ノ一條ヲ追加シ第五十三條中第四十九條ノ次ヘ第

五十條第五十一條ノ九字ヲ挿入シ且第四十九條ヲ第五十條ト改メ以下

順次繰下ク

第四十九條 前條區域内ノ木賃宿ハ一坪ニ付三人ノ割ヲ以テ宿泊人ノ員

數ヲ定メ之ヲ客室ノ出入口ニ揭示スヘシ此制限ヲ超テ宿泊セシムルコ  
ト得ス

附則第一項中「西成郡難波村字南河原」ノ十字ヲ削除ス

投宿届様式第一欄内「投宿番號」トナルヲ「各室番號」ト改ム

参照 (訂正文)



第十五條 宿引ヲ出シ客ヲ誘引シ又ハ客ヲ誘引シ來リタル者ニ種々ノ名義ヲ以テ金錢物品ヲ給與スヘカラス

第二十五條 宿屋營業者ハ大坂四區及接續町村並堺區奈良ニ於テハ警察署ノ管轄區域ニ從ヒ一種類毎ニ組合ヲ設クヘシ  
但事情ニ依リ各種類ヲ併セテ一組合ト爲スコトヲ得

第四十九條 (本條ハ追加ニ依リ前項ニ根據アルヲ以テ略ス)

第五十四條 第十一條第十七條第三十六條第三十八條第四十條第四十六條第四十九條第五十條第五十一條及第二十二條第三十七條第三十九條ニ違ヒ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサル表ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以下一圓以下ノ科料ニ處ス

第二款 宿屋取締規則施行心得中追加 (前編第八編百三十二丁ニ在リ)

○木達乙第七十六號 明治二十年六月廿一日 警察署 水上署ヲ除ク

宿屋取締規則施行心得中左ノ通追加ス

第四條第二項「但」ノ下「規則第四條第三項ニ據ル場合ノ外」ノ數字ヲ挿入ス  
第十條「稟議ノ上」ノ下「別紙様式ノ」ノ五字ヲ挿入ス同條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但規則第四條第三項ノ場合ハ事明瞭ナルモ一應本人ヲ喚徴シ其相違ナキ

「ヲ自認セタル上(稟議ヲ要セス)下付スヘシ  
左ノ様式ヲ追加ス

何郡區町村番地身分  
旅人宿 (下宿屋) 營業人何某

明治何年何月何日何營業出願ニ依リ允許ヲ與ヘ置キタル處當府宿屋取締規則  
第四條第何項ニ(該當スル)ヲ發見シタル 允許以前ノ前科發見シタル時等 (該當スル者ト認ムル等ノ場合ニ) 該當スル 允許後第二項又ハ第一項ニ當リタル時 ヲ以テ同第九條ニ依リ糞ニ與ヘタル允許ヲ取消ス

大阪府某警察署 印

参照

第四條 願届書ノ調理ハ左ノ例ニ據ルヘシ

- 一 精査ノ上允許及ハ認可ヲ與フヘキ願届ハ其書面ニ指令ヲ附シ宿屋營業者名簿ニ記入シ之ニ割印ヲ爲シテ下附スヘシ
  - 二 允許ヲ與フヘカヲサルモノハ願書ニ指令ヲ附シ宿屋營業照願名簿ニ其理由ヲ記入シ一面口頭ヲ以テ理由ヲ本人ニ示シ願書ヲ下附スヘシ
- 但規則第四條第三項ニ據ル場合ノ外指令以前ニ理由ヲ詳悉シテ



稟議スルヲ要ス

三 書面ハ總テ副本ヲ徵セス願書及認可スヘキ届書ハ指令シテ下附シ許可シタル者ノ明細圖面ハ取置クヘシ

第十條 規則第九條ニ據リ允許ノ取消ヲ必要ト認ムルハ本部ニ稟議ノ

上別紙様式ノ命令書ヲ下附シテ請書ヲ徵スヘシ

但規則第四條第三項ノ場合ハ事明瞭ナルモノ一應本人ヲ喚徴シ其相違ナキコトヲ自認セシメタル上(稟議ヲ要セス)下付スヘシ

○本達乙第八十六號 明治廿年七月七日

警察署 水上署  
ヲ除ク

宿屋取締規則施行心得第十二條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但滿六ヶ月ノ後改悛ノ狀殊ニ著シク允許ヲ必要ト認ムル場合ハ事由ヲ具シテ稟議スヘシ

参照

第十二條 規則第四條第四項ニ因リ允許ヲ與ヘヌ又ハ允許ヲ取消シタル

者再ヒ願出ル時ハ滿二年ヲ經過シ且改悛ノ認アル場合ニ限リ允許ヲ與

フヘシ他ノ警察署ニ願出ルハ亦同シ

但滿六ヶ月ノ後改悛ノ狀殊ニ著シク允許ヲ必要ト認ムル場合ハ事由ヲ具シテ稟議スヘシ

第三款 宿屋組合格約標準

○本達乙第三十四號 明治廿年三月十一日

區部警察署  
會天警察署

宿屋組合格約標準別冊相示候條尙實際ヲ斟酌シテ適宜増損規定可致旨營業者へ相達ス可シ

宿屋組合格約標準

旅人宿(又ハ下宿屋)組合規約

第一章 綱領

第一條 當組合ハ何々(官署警察署)組合ト稱シ明治十九年大阪府令宿屋取締規

則ニ依リ營業スル處ノ旅人宿(又ハ)營業者ヲ以テ組成スルモノトス

第二條 此規約ハ組合營業者一般承諾ノ上大阪府ノ認可ヲ經テ履行スルモノ

ナレハ其營業者一般ニ之ヲ恪守スルノ義務アルモノトス

第三條 此規約承諾ノ証トシテ組合營業者一般本書ノ紙尾ニ記名調印スルモノトス

但新規開業セントスル者ハ出願ノ際記名調印スルモノトス謂レナク之ヲ拒ムルハ營業願ニ取締人ノ加印ヲ謝絶スヘシ

第四條 何郡區町村番地ヲ以テ當組合事務扱所ト爲ス

第二章 組合取締人



第五條 組合營業者ハ正副取締人ヲ撰舉スルノ權ヲ有ス

第六條 正副取締人ノ撰舉ヲ要スル片ハ事務扱所ニ於テ撰舉場ヲ確定シ三日以前ニ各營業者ニ通知シ同時ニ投票用紙ヲ配付スルモノトス

第七條 營業者ハ通知ヲ受ケタル期日ニ撰舉場ニ出頭シテ投票スヘシ差支アル片ハ他人ニ依托スルヲ得ルト雖モ其投票ハ自ラ之ヲ作リ封印ノ上差出スヘシ

第八條 投票用紙ハ左ノ雛形ニ倣ヒ署名調印スルモノトス署名ナキ投票ハ無効トス

半紙四ツ切

取締人(又ハ副)	何町村
右 撰 舉 ス	何 之 某
年月日	何町村番地
	營業者 何之某

第九條 開票ハ撰舉人ノ目前ニ於テ書記二名ヲシテ之ヲ掌ラシメ被撰人ノ氏名ヲ呼號シテ點數ヲ取ルモノトス撰舉人ノ氏名ハ之ヲ公言セス

第十條 票數最高點ヲ以テ當撰トシ同數ナル片ハ年長ヲ取リ同年ナル片ハ抽ク

第十一條 當任者定リタル片ハ營業者總代トシテ二名以上及開札ヲ爲シタル書記並ニ其當任者連署シ當票計算書及投票原紙ヲ添テ届出ノ手續ヲ爲スモノトス

第十二條 正副取締人ノ任期ハ二年トス

但最初ノ副取締人ニ限リ一々年トシ爾後毎年一名宛交互改撰スルモノトス再撰セラレタル者ハ重任スルコトヲ得

第十三條 任期限内退職スル者アル片ハ臨時撰舉シテ之ヲ補充スト雖モ其當撰者ハ前任ノ期限ヲ以テ任期トス

第三章 組合會議

第十四條 組合會議ハ組合取締人ヲ以テ其會長ニ充テ組合營業者中ヨリ撰舉シタル委員(十カ至二十カ)名ヲ以テ組成スルモノトス

第十五條 委員撰舉ニ付テハ第五條乃至第十一條及ヒ第十三條ヲ適用ス

第十六條 委員ノ任期ハ二年トシ毎年一月其半數ヲ改撰スルモノトス但最初ノ半數ハ一々年トス再撰セラレタル者ハ重任スルコトヲ得ヘシ

第十七條 組合會議ハ毎年二月ヲ以テ開會ノ定期トス

第十八條 會長ハ組合公共ノ利害相關シ定期會議ヲ俟ツノ違アラスト思料ス



ル事件アル片ハ警察署ノ指示ニ依リ又ハ委員半数以上ノ請求ニ依リ若クハ其意見ヲ以テ臨時會議ヲ開クヲ得

但警察署ノ指示ニ係ラサル場合ハ豫メ其認可ヲ受クルヲ要ス

第十九條 議按ハ會長及委員中ヨリ提出スルモノトス一般營業者ニシテ會議ノ決議ヲ必要ト認ムル意見アル片ハ其旨會長ニ申入ル、コヲ得

第二十條 會長ハ開會ノ時日及場處ヲ定メ十日以前各委員ニ通知スルモノトス

第二十一條 委員ニシテ議按ヲ提出セントスル者ハ前條ノ通知ヲ受ケタルヨリ五日以内ニ口頭又ハ筆記ヲ以テ會長ニ申入、ルモノトス

第二十二條 會長ハ自ラ提出スヘキ議按ナク且開會三日以前ニ委員ヨリ議按ノ提出ナキ片ハ流會ト爲シ其旨委員ニ通報スルモノトス

第二十三條 會議ハ總テ簡潔必要ヲ旨トシ決テ冗雜虚儀ニ亘ラサルヤウ一般ニ注意スヘキモノトス

第二十四條 組合會議ニ於テ議定スヘキ事項左ノ如シ

- 一 組合規約ヲ評定及變更スル事
- 二 組合規約違反者ノ處置法ヲ定ムル事

右ノ外組合公共ノ取締向及利害ニ關スルコト

第二十五條 前條第一項ハ大坂府其他ハ警察署ノ認可ヲ經テ取締人之ヲ實行スルモノトス

第二十六條 組合會議ハ組合營業者ノ總体ヲ代表スルモノナレハ前條ニ依リ實行スル事柄ハ組合營業者ニ於テ謂ハレナク異議ヲ唱ルコトヲ得サルモノトス

第四章 組合費用

第二十七條 組合費用ノ定額ハ左表ニ依ル

○組合費用一ヶ月分豫算定額

金	項	目	備	考
金	取締人一名	給料	日・給	金 何 錢
金	副取締人一名	給料	日 給	金 何 錢
金	筆生何名	給料	一名ニ付日給	金何錢
金	小使一名	給料	日 給	金 何 錢
金	全上臨時備入費		一日目金何錢ノ割 一ヶ月何人備入ノ見込	



金	事務扱所家賃
金	筆墨紙料
金	茶炭油蠟燭料
金	右ノ外消耗品料
金	備付品購求及修繕費

第二十八條 組合委員ハ給料ヲ受クルコトナシ其會議ノ費用ハ前條ノ費額ヲ流用スルモノトス

第二十九條 費用ハ組合營業者ヨリ徴收スルモノトス賦課ノ方法ハ總額ヲ二分シ其一ヲ各營業者ニ分課シ其一ヲ坪數ニ課スルモノトス

第三十條 費用ハ毎年一月ヲ始メトシ四季ニ別テ徴收ス一季ノ豫算ニ殘餘アル片ハ翌季ニ繰越シテ之ヲ補助シ不足ヲ生シタル片ハ警察署ノ認可ヲ經テ翌季ニ増加徴收スルモノトス

第三十一條 取締人ハ毎季ノ初メニ於テ前季ノ經費ヲ決算シ之ヲ警察署ニ届出別ニ事務扱所ニモ揭示スヘキモノトス

第三十二條 取締人ハ毎年ハ初メニ於テ前一年間ノ經費ヲ決算シ之ヲ定期會議ニ報告スヘキモノトス定期會議ヲ開カサル片ハ委員ニ同覽シテ其認印ヲ受テ置クヘシ

第三十三條 費用ハ充分節儉ヲ旨トシ支拂金明細帳ヲ作テ常ニ之ヲ詳記シ置キ營業者中見ノヲ求ムル者アル片ハ何時ニテモ之ヲ示スヘキモノトス

第五章 公共事務及申合  
第三十四條 取締人ハ組合公共ノ便益ヲ謀リ其利害經微ニ屬セサル事項ハ可成組合會議ノ意見ヲ問フテ決行スヘキモノトス

第三十五條 取締人ハ組合事務ノ爲メ營業者ニ面接ヲ必用トスル片ハ事務扱所ニ出頭ヲ求ムルヲ得ヘシ

第三十六條 旅人宿ニシテ下宿屋ノ業ヲ爲ス者(之レハ下宿屋ノ規約ニ用ヒ旅人宿ノ業ヲ爲ス者ト記スヘシ)アル片ハ事務扱所ヨリ申込ミテ當組合ニ加入セシムヘシ

第三十七條 宿泊人(下宿屋ノ分ハ宿人)中職業住所等ヲ隱蔽又ハ詐稱シ或ハ不相當ノ金銭ヲ濫費シ其他犯罪者ニ疑ハレキ景狀アル片ハ速ニ最寄警察署又ハ巡查派出所ニ密告スヘキモノトス

第三十八條 客室便所等ニ常ニ清潔ニ掃除スヘキハ勿論腐敗不熟ノ飲食物ヲ供シ不潔ナル夜具器物ヲ用ユヘカラス惡疾流行ノ際ハ殊ニ注意シ不潔ノ場處ニハ時々防臭劑ヲ散布スヘキモノトス



第三十九條 伊勢參宮諸山參詣ノ道者其他土地不按内ノ客ハ殊ニ懇切ニ取扱  
ヒ物品購求等ノ周旋ヲ頼マル、片ハ直實ニ周旋シ直接間接ヲ問ハヌ決シテ  
之カ爲メニ口錢等ノ利益ヲ收受スヘカラサルモノトス

第四十條 宿泊料(下宿屋ハ)ハ各自物價ニ比較シ可成安直ニ定メテ事務扱所  
ニ之ヲ通知シ且制規ニ從ヒ帳場及客室ニ揭示スヘキモノトス其料額甚不相  
當ト認ムル片ハ組合會議ノ議決ニ依リ管轄警察署ノ認可ヲ得テ更正ヲ求ム  
ルコトアルヘシ之ニ應セサル者ハ此規約違反者ト爲シ第四十四條ニ依リ處分  
スヘシ

第四十一條 宿引ヲ出スハ取締規則ノ嚴禁スル處ナレトモ道中筋等ニ密ニ出張  
セシムル者アルヲ聞知シタル片ハ封書ヲ以テ警察署又ハ組合事務扱所ニ告  
知スヘキモノトス

第四十二條 人力車夫其他ノ者ニ依頼シテ客ヲ誘引セシメ又ハ客ヲ誘引シ來  
リタル者ニ煙草代其他種々ノ名義ヲ以テ金錢物品ヲ授與スヘカラサルモノ  
トス

第六章 傭人ノ傭入及解傭

第四十三條 取締規則第四條第二項第三項第四項ニ抵觸スル者ハ雇人ト爲ス  
ヘカラサル制規ナレハ若シ雇入ノ後之ヲ發見シタル片ハ即日解雇スヘキモ

ノトス(本章ハ此他尙實際ノ必要ニ應シテ規定スヘシ)

第七章 違約者處分

第四十四條 組合營業者ニシテ此規約ニ違背スル片ハ第二十四條及第二十五  
條ノ手續ニ依リ左項ニ從テ處分スルモノトス

一 五十錢以上五圓以下ノ違約金ヲ出サシムル事  
一 違約金ヲ出サシメタルコトヲ事務扱所内ニ揭示シ且之ヲ組合營業者一般ニ  
通知スル事

第四十五條 組合營業者ハ相戒メテ此規約ニ違背スルコトナカルヘシト雖モ若  
シ違約シテ前條處分ノ告知ヲ受テ十五日以内ニ違約金ヲ差出サ、ル片ハ當  
組合ニ加入スルノ念慮ナキモノト見做シ組合ヲ除名スヘシ之カ爲メニ宿屋  
取締規則第二十七條ニ依リ處分セラル、モ後日異議ヲ唱ルコトヲ得サルモノ  
トス

第四十六條 正副取締人ト雖モ此規約ニ違背スル片ハ一般營業者ト同一ニ處  
分スルモノトス

第三章 車輛

第一款 營業人力車取締規則中削除

(前編第八編百五十一丁ニ在リ)

附 駐車場ニ關スル  
事項規程ニ施行



●府令第五十二號 明治二十年四月三十日  
明治十九年當府令(中略)第五十號營業人力車取締規則第十四條中「驛遞局貯金預り帳」ノ八字ヲ削除ス

參照

第十四條 營業者ハ出願ノ際身元保証金トシテ左ノ金額ヲ管轄警察署ニ納付スヘシ

但適宜公債証書(驛遞局貯金預り帳)國立銀行預り券ヲ以テ納ムルコトヲ得

- 一營業者一人ニ付 金 十圓
- 二人力車一輛ニ付 金 二圓

●府令第百十六號 明治二十年十二月廿七日

明治十九年府令第五十號營業人力車取締規則第十九條中五錢及四錢トアルヲ何レモ二錢ト改ム

●府令第四十五號 明治二十年二月廿六日

明治十九年府令第四十九號營業人力車取締規則中駐車場ニ關スル事項ヲ堺區及其接續村ニ施行ス

第二款 乗合馬車取締規則中削除

(前編第八編營業百六十五丁ニ在リ)

●府令第五十二號 明治二十年四月三十日

明治十九年當府令第四十九號乗合馬車取締規則第十七條(中)「驛遞局貯金預り帳」ノ八字ヲ削除ス

參照

第十七條 營業者ハ出願ノ際身元保証金トシテ左ノ金額ヲ管轄警察署ニ納付スヘシ

但適宜公債証書(驛遞局貯金預り帳)國立銀行預り券ヲ以テ納ムルコトヲ得

- 一營業者一人ニ付 大阪四區ハ 金 三十圓
- 二馬車一輛ニ付 其他ハ 金 二十圓
- 大阪四區ハ 金 五圓
- 其他ハ 金 三圓

●府令第百十六號 明治二十年十二月廿七日

明治十九年府令第四十九號乗合馬車取締規則第二十二條中五錢及四錢トアルヲ何レモ二錢ト改ム

第三款 營業人力車乗合馬車取締規則施行心得中改正

正(前編第八編營業百八十八丁ニ在リ)

○本達乙第廿一號 明治二十年二月廿四日

警察署 水上署ヲ除ク

營業人力車乗合馬車取締規則施行心得中左ノ通改ム

該施行心得中第五十一條並ニ其様式ハ廿二年本達第百三十二號但書ヲ以テ廢止ス



- 一第十二條中「欠號ト爲シ」以下ヲ削リ左ノ數字ヲ以テ之ニ代フ
- 欠號錄ニ記入シ順次ニ再ヒ填補スヘシ
- 一第三十條「與フヘシ」ノ下左ノ數字ヲ加フ
- 認可ノ指令ニハ番號ヲ付シ其番號ハ駐車場標札ノ肩ニ記入セシムヘシ
- 一第四十九條中「馬車」ノ下「駐車場」ノ三字ヲ加フ
- 一腕子鑑札雛形中「年月日生」トアルヲ「何年何ヶ月」ト改ム
- 一別紙様式ヲ追加ス

式樣帳臺場車駐車力人設公

故 事	何年何日	故 事	故 事	署名ノ頭字		幅 數	其場ノ圖面
				番 號	町 名 位 置		







住所何某輓子  
住所族籍

何 某

何年何月

年月檢

年月檢

何年何月檢

何年何月

年月檢

年月檢

検査極印

○本達乙第三十三號 明治二十年三月十日

警察署 水上署

營業人力車乗合馬車取締規則施行心得中左ノ通改正追加ス  
第十九條 「請求」ノ下「シ」ノ一字ヲ削リ左ノ數字ヲ加フ

「ヌヘン」若シ前條依リ送付スヘキ保証金アル片ハ直チニ戻入ヲナシテ不足ヲ請求シ若クハ過額ヲ送付シ其過不足ナキ場合ハ計算書ヲ送付スヘシ  
第二十三條 「迄」ノ下ヘ「証憑ヲ添ヘ」ノ五字ヲ挿入シ「ヌヘン」ノ下左ノ通追加ス

「第十八條ニ依リ送付スヘキ手数料アル片ハ第十九條ノ例ニ準スヘシ  
左ノ様式ヲ追加ス

保証金 (送付) 計算書

受入高

一金 内

人力車營業者何名身元保証金

馬車營業者何名身元保証金

拂戻高

人力車營業者何名身元保証金

馬車營業者何名身元保証金

差引 (不足) 高

(又ハ差引過不足ナシ)

一金 金 金 金 金 金 一金



現時第四課長

現時第四課

右ハ何年何月中營業人力車乗合馬車身元保証金書面之通(受拂候也)(受拂  
發金及御送付候也)(受入及御送付候也)(拂戻及請求候也)  
不足金及請求  
年月日

第三課長宛

署長

(参考) 全

第十九條 保証金ノ還付ヲ要スルハ現金ハ一時替繰置其月分翌月五日限  
戻入方第三課ヘ請求スヘシ若シ前條ニ依リ送付スヘキ保証金アルハ  
直チニ戻入ヲナシテ不足ヲ請求シ若クハ過額ヲ送付シ其過不足ナキ場  
合ハ計算書ヲ送付スヘシ其他ハ該署ニ於テ出納スヘシ其取扱順序モ亦  
前條ニ同シ

第二十三條 前條ノ費用ハ一時繰替置其月分翌月五日迄ニ証憑ヲ添ヘ第  
三課ニ請求スヘシ第十八條ニ依リ送付スヘキ手数料アルハ第十九條  
ノ例ニ準スヘシ

○本達乙第四十五號 明治二十年四月四日

警察署 水上署  
ヲ除ク

營業人力車乗合馬車取締規則施行心得第十八條中「納人ニ領收証書ヲ發シ」ノ  
十字ヲ削除ス

(参考) 全

現時第四課

二十年府令第五  
十二號ヲ以テ  
遞局貯金預リ帳  
ノ八字削除ニヨ  
リ消ス

第十八條 身元保証金及検査証鑑札ノ手数料ヲ納付シタルハ現金ハ其  
月分取纏ノ翌月五日限リ該署ヲ發シテ第三課ヘ送付シ其他ハ該署ニ領  
置スヘシ其取扱順序ハ一般ノ出納例規ニ依ルヘシ

第四款 營業者保証金他人ノ名義ニ係ル預券ナルハ  
承諾書式

○本達乙第廿九號

明治廿年三月三日

區部警察署

人力車營業者身元保証金トシテ其華族又ハ輓子ノ名義ニ係ル國立銀行預リ券  
(又ハ驛遞局貯金預リ帳)ヲ差出スハ左ノ雛形ニ倣ヒ承諾証ヲ徴シテ領收ス  
ヘシ其他他人ノ名義ニ係ルモノハ領收スヘカラス

承諾書式

一金何圓何錢

但、驛遞局貯金預リ帳  
又ハ其銀行預リ券

右ハ私所有ノ預リ帳(又ハ預リ券)ニ有之候處今般何某人力車營業身元保証金  
トシテ御署ニ差出シ候上ハ營業人力車取締規則第十七條ニ依リ何時充用セラ  
ル、モ更ニ異存無之候間此段承諾ノ証トシテ此書面差出シ候也

第五款 營業人力車組合規約標準

○本達乙第廿四號

明治二十年二月廿八日

警察署 水上署  
ヲ除ク

第八編營業

營業人力車組合規約標準

二百四十九



營業人力車取締規則ニ因テ規定スル組合規約完全ナラズ或ハ各組合甚シク區々ニ亘ル等ノコアルルハ自然紛議ヲ生スル義モ可有之ニ付左ニ其標準ヲ示シ候條宜シク之ニ準據シ尙實際ノ必要ヲ斟酌シテ適宜規定可致旨營業者へ相達ス可シ

營業人力車組合規約標準

第一章 綱領

第一條 當組合ハ何々(官廳警察署)組合ト稱シ明治十九年大阪府令營業人力車取締規則ニ依リ營業スル處ノ人力車營業者ヲ以テ組成スルモノトス

第二條 此規約ハ組合營業者一般承諾ノ上大阪府ノ認可ヲ經テ履行スルモノナレハ其營業者一般ニ之ヲ恪守スルノ義務アルモノトス

第三條 此規約承諾ノ証トシテ組合營業者一般本書ノ紙尾ニ記名調印スルモノトス

但新規開業セントスル者ハ出願ノ際記名調印スルモノトス謂レナク之ヲ拒ムルハ營業願ニ取締人加印ヲ謝絶スヘシ

第四條 何郡區町村番地ヲ以テ當組合事務扱所ト爲ス

第二章 組合取締人

第五條 組合營業者ハ正副取締人ヲ撰擧スルノ權ヲ有ス

第六條 正副取締人ノ撰擧ヲ要スルルハ事務扱所ニ於テ撰擧場ヲ確定シ三日以前ニ各營業者ニ通知シ同時ニ投票用紙ヲ配付スルモノトス

第七條 營業者ハ通知ヲ受ケタル期日ニ撰擧場ニ出頭シテ投票スヘシ差支アルルハ他人ニ依托スルヲ得ルト雖モ其投票ハ自ラ之ヲ作リ封印ノ上差出スヘシ

第八條 投票用紙ハ左ノ雛形ニ倣ヒ署名調印スルモノトス署名ナキ投票ハ無効トス

取締人 <small>(又ハ副)</small>	何 町 村
右 撰 擧	何 之 誰
年月日	何町村番地
	營業者 何 之 某

第九條 開票ハ撰擧人ノ目前ニ於テ書記二名ヲシテ之ヲ掌ラシメ被撰人ノ氏名ヲ呼號シテ点数ヲ取ルモノトス撰擧人ノ氏名ハ之ヲ公言セズ

第十條 票數最高點ヲ以テ當撰トシ同數ナルルハ年長ヲ取リ同年ナルルハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム當撰者其任ヲ辭スルルハ次點ノ者ヲ當撰ト爲ス



第十一條 當任者定リタルハ營業者總代トシテ二項以上及開札ヲ爲シタル書記並ニ其當任者連署シ當票計算書及投票原紙ヲ添テ届出ノ手續ヲ爲スモノトス

第十二條 正副取締人ノ任期ハ二ケ年トシ副取締人ハ毎年一名宛交互改撰スルモノトス再撰ニ依リ重任スルコトヲ得

第十三條 任期限内退職スル者アルハ臨時撰舉シテ之ヲ補充スト雖モ其當撰者ハ前任ノ期限ヲ以テ任期トス

第三章 組合會議

第十四條 組合會議ハ組合取締人ヲ以テ其會長ニ充テ組合營業者中ヨリ撰舉シタル委員(十乃至二十)名ヲ以テ組成スルモノトス

第十五條 委員撰舉ニ付テハ第五條乃至第十一條及ヒ第十三條ヲ適用ス

第十六條 委員ノ任期ハ二ケ年トシ毎年一月其半數ヲ改撰スルモノトス再撰ニ依リ重任スルコトヲ得

第十七條 組合會議ハ毎年二月八月兩回ヲ以テ開會ノ定期トス

第十八條 會長ハ組合公共ノ利害ニ關シ定期會議ヲ俟ツノ邊アラスト思料スル事件アルハハ警察署ノ指示ニ依リ又ハ委員半數以上ノ請求ニ依リ若クハ其意見ヲ以テ臨時會議ヲ開クコトヲ得

但警察署ノ指示ニ係ラサル場合ハ豫メ其認可ヲ受ケタルヲ要ス

第十九條 議按ハ會長及委員中ヨリ提出スルモノトス一般營業者ニシテ會議ノ決議ヲ必要ト認ムル意見アルハ其旨會長ニ申入ル、コトヲ得

第二十條 會長ハ開會ノ時日及場處ヲ定メ十日以前各委員ニ通知スルモノトス

第二十一條 委員ニシテ議按ヲ提出セントスル者ハ前條ノ通知ヲ受ケタルヨリ五日以内ニ口頭又ハ筆記ヲ以テ會長ニ申入ル、モノトス

第二十二條 會長ハ自ラ提出スヘキ議按ナク且開會三日以前ニ委員ヨリ議按ノ提出ナキハ流會ト爲シ其旨委員ニ通報スルモノトス

第二十三條 會議ハ總テ簡略必要ヲ旨トシ決テ冗雜虛儀ニ亘ラサルヤウ一般ニ注意スヘキモノトス

第二十四條 組合會議ニ於テ議定スヘキ事項左ノ如シ

- 一 人力車賃錢ヲ評定及變更スル事
  - 二 組合同規約ヲ評定及變更スル事
  - 三 組合同規約違反者ノ處置法ヲ定ムル事
- 右ノ外組合公共ノ利害ニ關スル事

第二十五條 前條第一項及第二項ハ大坂府其他ハ警察署ノ認可ヲ經テ取締人



之ヲ實行スルモノトス

第二十六條 組合會議ハ組合營業者ノ總体ヲ代表スルモノナレハ前條ニ依リ實行スル事柄ハ組合營業者ニ於テ謂ハレナク異議ヲ唱ルコトヲ得サルモノトス

第四章 組合費用

第二十七條 組合費用ノ定額ハ左表ニ依ル

○組合費用一ヶ月分豫算定額

金	額	項目	備考
金		取締人一名給料	日給金何錢
金		副取締人(又ハ)名給料	(一名)日給金何錢 (二付)
金		筆生何名給料	一名ニ付日給金何錢
金		小使一名給料	日給金何錢
金		駐車場掃除人足一名備費	一日賃金何錢
金		全上臨時備入費	一日賃金何錢ノ割 一ヶ月何人備入ノ見込

金 事務扱所家賃

金 筆 墨 紙 料

金 茶 炭 油 蠟 燭 料

金 右ノ外消耗品料

金 備付品購求及修繕費

第二十八條 組合委員ハ給料ヲ受クルコトナシ其會議ノ費用ハ前條ノ費額ヲ流用スルモノトス

第二十九條 費用ハ組合營業者ヨリ徴收スルモノトス賦課ノ方法ハ總額ヲ三分シ其一ヲ各營業者ニ分課シ其一ヲ轆子ノ數ニ課シ其一ヲ車体ノ數一人乗ラ區別セニ課スルモノトス

第三十條 費用ハ毎年一月ヲ始メトシ四季ニ別テ徴收ス一季ノ豫算ニ殘餘アル片ハ翌季ニ繰越シテ之ヲ補助シ不足ヲ生シタル片ハ警察署ノ認可ヲ經テ翌季ニ増加徴收スルモノトス

第三十一條 取締人ハ毎季ノ初メニ於テ前季ノ經費ヲ決算シ之ヲ警察署ニ届出別ニ事務扱所ニモ揭示スヘキモノトス



第三十二條 取締人ハ毎年ノ初メニ於テ前一年間ノ經費ヲ決算シ之ヲ定期會議ニ報告スヘキモノトス定期會議ヲ開カサル片ハ委員ニ回覽シテ其認印ヲ受ケ置クヘシ

第三十三條 費用ハ充分節儉ヲ旨トシ支拂金明細帳ヲ作テ常ニ之ヲ詳記シ置キ營業者中見ノコヲ求ムル者アル片ハ何時ニテモ之ヲ示スヘキモノトス

第五章 公共事務

第三十四條 取締人ハ組合公共ノ便益ヲ謀リ其利害輕微ニ屬セサル事項ハ可成組合會議ノ意見ヲ問フテ決行スヘキモノトス

第三十五條 取締人ハ組合事務ノ爲メ營業者ニ面接ヲ必要トスル片ハ事務扱所ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第三十六條 事務扱所ニハ常ニ人足一名ヲ備置キ絶ヘス公設駐車場ノ掃除ヲ爲サシムルモノトス

但雨後ニ在テハ臨時ニ一名若クハ二名ヲ増加シテ破難ノ脱捨テ柱標ノ汚漬等ヲ掃除セシムルモノトス

(本章ニ於テハ此他尙實際ノ必要ニ應シテ適宜ノ事項ヲ規定スヘシ)

第六章 輓子備入及解備

(本章ニ於テハ實際ノ必要ニ依リ適宜規定スヘシ)

第七章 違約者處分

第三十七條 組合營業者ニシテ此規約ニ違背スル片ハ第二十四條及第二十五條ノ手續ニ依リ左項ニ從テ處分スルモノトス

一 五十錢以上五圓以下ノ違約金ヲ出サシムル事

一 違約金ヲ出サシメタルコトヲ事務扱所内ニ揭示シ且之ヲ組合營業者一般ニ通知スル事

第三十八條 違約者前條處分ノ告知ヲ得テ十五日以内ニ違約金ヲ差出サ、ル片ハ警察署ニ願出テ身元保証金ヨリ控除ヲ乞フヘシ之カ爲メ身元保証金ニ欠額ヲ生シ營業人力車取締規則第十八條ニ依リ處分セラル、モ後日異議ヲ唱ルコトヲ得サルモノトス

第三十九條 正副取締人ト雖此規約ニ違背スル片ハ一般營業者ト同一ニ處分スルモノトス

第六款 車輛所有者心得

●府令第九十八號 明治二十年十月七日

車輛所有者心得別冊ノ通制定ス

但本令ニ牴觸スル從前ノ令達ハ總テ廢止ス

車輛所有者心得



第一項 新ニ車輛ヲ調製使用セントスルモノハ第一號書式ニ倣ヒ所轄郡區役所へ届出檢印并ニ番號札ヲ受クヘシ

第二項 番號札ヲ受タル片ハ檢印ニ並列釘附シ置クヘシ

第三項 車輛ヲ賣買讓與スル片ハ第二號書式ニ倣ヒ双方連署ノ書面ヲ以テ所轄郡區役所へ届出シ番號札ノ書換ヲ請フヘシ

但甲乙郡區ニ交渉スル片ハ其買主所轄ノ郡區役所ニ届出ツヘシ

第四項 前項他府縣管下ニ交渉スル片ハ買主ハ第一號賣主ハ第三號書式ニ倣ヒ其時々所轄郡區役所へ届出ツヘシ

第五項 左ノ場合ニ於テハ第四號第五號書式ニ倣ヒ其時々所轄郡區役所へ届出ツヘシ

一 車輛ヲ變造シタル片

二 乗客馬車ヲ荷積馬車ニ牛車ヲ荷車ニ變造使用スル等ノ片

三 乗客荷臺ヲ伸縮シ其他修繕等ノ爲メ坪數ニ増減ヲ生シタル片

第六項 車輛所有者改氏名轉居等ニ據リ番號札面ニ異動ヲ生シタル片ハ第六號書式ニ倣ヒ其時々所轄郡區役所へ届出テ番號札ノ書換ヲ請フヘシ

但他郡區へ轉居セシ片ハ其轉居セシ所轄郡區役所へ届出ツヘシ

第七項 車輛破壊スル片ハ第七號書式ニ倣ヒ其時々所轄郡區役所へ届出テ檢

印ノ刪除ヲ請ヒ番號札ヲ返納スヘシ

第八項 水火盜難及其他ノ事故ニ據リ車輛ヲ失却シタル片又ハ之ヲ發見シタル片ハ第八號書式ニ倣ヒ其旨所轄郡區役所へ届出ツヘシ

第九項 車輛ノ檢印磨滅シタル片ハ第九號書式ニ倣ヒ所轄郡區役所へ届出更ニ檢印ヲ受クヘシ

第十項 番號札ヲ遺失シ又ハ毀損シタル片ハ第十號書式ニ倣ヒ所轄郡區役所へ届出テ之カ再渡ヲ請フヘシ

第十一項 車輛ヲ貸借スル場合ト雖モ番號札ハ必ス釘附シ置クヘシ

第十二項 人力車一人乗ハ乘臺ノ横申内法曲尺二尺以上ニ荷積中小車ハ荷臺ノ尺積十四坪(坪數ハ荷臺ノ縱横ノ積)以上ニ超過スヘカラス

第十三項 車輛ハ租稅檢査員ニ於テ隨時檢査ヲ爲シ檢査濟ノ印章ヲ押捺スルコトアルヘシ

(第一號書式)

車輛新調御届

一馬車 但一匹立 (二匹立)

一人力車 但一人乘 (二人乘)

二荷積車 但大六以下 (大七以上)



一荷車

但、

右ハ今般新調候ニ付御檢印ノ上番號札御下附被成下度此段御届仕候也

國郡町番地

年月日

何某印

(戶長與印ハ例規ニ據ル)

區郡長氏名宛

(第二號書式)

車輛賣買(讓與)御届

一馬車

但一匹立

(二匹立)

一荷積車

但大六以下

(大七以上)

一何車

但、

右ハ今般何國何<sub>區郡町</sub>何番地何某ハ賣渡(讓渡)候ニ付テハ番號札御書換被成下度(舊番號札)相添へ双方連署ヲ以テ此段御届仕候也

國郡町番地

年月日

賣(讓)渡人 何某印

國郡町番地

買(讓)受人 何某印

區郡長氏名宛

(第三號書式)

車輛賣却御届

一馬車

但一匹立

(二匹立)

一人力車

但、

一何車

但、

右ハ今般何府縣何國何<sub>區郡町</sub>何番地何某ハ賣渡候ニ付御檢印刪除ノ上該所轄郡區役所へ御添翰被成下度番號札相添へ此段御届仕候也

國郡町何番地

年月日

何某印

(戶長與印ハ例規ニ據ル)

區郡長氏名宛

(第四號書式)

車輛變造(變換)御届

舊荷積大七車

一荷積車

但大六以下

書式中△印ハ朱書



舊何車大七車

一牛車

舊何車

一何車

右ハ今般前記又通變造(變換)候ニ付御調査ノ上番號札御書換被成下度舊番號札相添へ此段御届仕候也

年月日

國郡町番地

何某印

(戶長與印ハ例規ニ據ル)

區郡長氏名宛

(第五號書式)

車輛異動御届

舊何車

一人力車

舊何車

一何車

右ハ今般修繕(又ハ乘臺荷臺ヲ伸へ或ハ縮メ)候ニ付御調査ノ上番號札御書換

被成下度舊番號札相添へ此段御届仕候也

年月日

國郡町番地

何某印

(戶長與印ハ例規ニ據ル)

區郡長氏名宛

(第六號書式)

改氏名(轉住)ニ付番號札御書替届

私儀何車所持(候處今般改氏名)何國何郡町何番地ニ居住罷在候處今般轉居致シ候ニ付番號札御書換被下度舊番號札相添此段御届仕候也

年月日

國郡町番地

何某印

名舊 何某

(戶長與印ハ例規ニ據ル)

(改氏名ニ限ル)

區郡長氏名宛

(第七號書式)

車輛破壞御届

一荷積車

但六七以上



一何車

但、

右ハ今般破壞候ニ付御檢印剛除被成下度番號札相添へ此段御届仕候也

國郡町番地

何某印

(戶長與印ハ例規ニ據ル)

年月日

郡長氏名宛

(第八號書式)

車輛盜難(失却)(發見)御届

一何車

但何々

一何車

但、

右ハ私所有罷在候處(今般水火盜難又ハ何々事故ニ據リ失却)(何年何月何日何々御届仕置候處今般發見)候ニ付此段御届仕候也

國郡町番地

何某印

(戶長與印ハ例規ニ據ル)

年月日

郡長氏名宛

(第九號書式)

車輛御檢印磨滅御届

一何車

但何々

一何車

但、

右車輛ノ御檢印磨滅候ニ付再ヒ御檢印被成下度番號札相添へ此段御届仕候也

國郡町番地

何某印

(戶長與印ハ例規ニ據ル)

年月日

郡長氏名宛

(第十號書式)

車輛番號札失却(毀損)御届

一何車

但何々

一何車

但、

右車輛ノ番號札今般失却(毀損)候ニ付再ヒ御下渡被成下度(舊番號札相添へ)此段御届仕候也

國郡町番地

何某印

(戶長與印ハ例規ニ據ル)

年月日



現時第三條

郡長氏名宛

第四章 彫刻營業者開廢轉居ノ并通報

○本達乙第五十六號 明治二十年五月四日

警察署水七層ヲ除ク

自今彫刻業取締規則第一條ニ掲クル營業者ニシテ開廢業又ハ全管轄内ニ轉居スル者アル并ハ其都度本部第二課へ通報スヘシ

但シ現營業者及ヒ明治十七年二月以來廢業セシ者ハ本文ニ準シ此際通報スヘシ

第五章 煙草營業取締

●府令第三十號 明治廿年二月廿四日

自用ノ煙草ヲ煙草製造人ニ非サルモノニ貸切セシメ又ハ煙草製造人ニ非スシテ自用人ノ煙草ヲ貸切スルヲ得ス違フモノハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

○本達乙第三十號 明治二十年二月廿六日

警察署水上層ヲ除ク

自用煙草貸切之義ニ付府令第三十號ノ發布有之候ニ付テハ收稅部派出検査員ヨリ直ニ協議スル場合モ可有之候條事宜ニ應シテ夫々相當ノ處置ヲ爲スヘシ

●府令第八號 明治二十年十一月一日

一 煙草印紙ヲ己ニ貼用シタルモノハ何人ト雖モ之ヲ所持シ若クハ他人

ニ交付シ又ハ其交付ヲ受ルコトヲ得ス

一 煙草營業者ハ己製ト未製トヲ問ハス煙草ヲ營業場外へ藏置セントスル并ハ其倉庫納屋ノ位置並ニ持主ノ住所氏名ヲ記シ租稅檢査員派出所へ届出ヘシ

一 煙草製造人ニシテ貸切又ハ葉卷ノ爲メ未製造ノ煙草ヲ交付シ若クハ其煙草ヲ受取リタル并ハ量目年月日貸切及葉卷人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ登記シ置クヘシ

一 前各項ニ違フ者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス



第九編 司法

第一章 司法警察事務取扱内則中改正

(前編第九編 三丁ニ在リ)

現時第三課

○本達乙第三十五號 明治廿年三月十一日

警察二課

明治十八年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup> 本甲第百廿四號通達司法警察事務取扱内則中左ノ通追加ス

第四十八條第一項送付スヘシノ下(其原籍明瞭ニシテ前科ナキ<sup>一</sup>及前科

アルモ包藏セサル<sup>一</sup>ノ判然タルモノハ此限ニアラス)ノ三十八字

第二項末文へ(其第二課答ノ外ニ前科ナキモノハ一件書類ニ添へ置ク

ヘシ)ノ二十六字

参照 (訂正文)

第四十八條 被告人ヲ引致シタル片ハ左ノ手續ニ從フモノトス

一 被告人初席訊問ノ片本管及父ノ名出生ノ地族籍營業氏名綽名變名

生年月日罪名引致ノ年月日別徵等ヲ前科問答様式各欄ニ記シ本部

ニ送致スヘシ其原籍明瞭ニシテ前科ナキ<sup>一</sup>及前科アルモ包藏セサ

ル<sup>一</sup>ノ判然タルモノハ此限ニアラス

但前科ノ有無ヲ知ルハ其氏名ニ依ルモノニシテ之レカ偽名セハ

索引其効ヲ失フ故ニ前科ヲ知ルト否ヲサルトハ訊問官ノ注意ヲ

要スルモノトス

二 本部第二課ヨリ問答紙ヲ返付スレハ前科ヲ訊問シ猶第二課答ノ外

ニ前科アル片ハ其罪刑名刑期監視年月日裁判所名宣告ノ年月日等

様式雜ノ欄内ニ記入ノ上一件書類ニ付シ裁判所ニ送致スヘシ

裁判所前巡査ハ問答紙ニ記載シタル前科及裁判所ニ於テ申立タル

前科等ヲ調査シ無遺漏記載ノ上前條第四項罪科報告書ニ添付シ第

二課ニ送致スヘシ其第二課答ノ外ニ前科ナキモノハ一件書類ニ添

へ置クヘシ

○本達乙第六十七號 明治二十年六月八日

警察二課

明治十八年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup> 本甲第百二十四號通達司法警察事務取扱内則第廿五條檢事ノ

下分駐ヲ刪除ス

参照

第二十五條 前條ノ場合豫審判事ノ所在地外ハ往復日數ヲ計リ檢事(官包

含)ニ書類ヲ送致シ其嘱托ヲ待ツヘシ

但本條ノ場合ハ被告人ヲ引致シタルヨリ嘱托アルマテノ日數十日ヲ

經過セサル様注意スヘキモノトス

○本達乙第八十三號 明治二十年七月四日

警察二課

明治十八年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup> 本甲第百二十四號通達司法警察事務取扱内則第四十四條中左

現時第三課

現時第二課



ノ一項ヲ追加ス

十五項 被告事件中未タ捕ニ就カサル者アル片ハ成ル可ク其人相取調書  
ヲ一件書類ニ添付スヘシ

### 第二章 傳染病豫防規則違反ノ醫師處分心得

○内達乙第十八號 明治二十年七月廿三日 警察署

明治十三年第三十四號布告傳染病豫防規則違反ノ醫師ニ對シ警察署ニ於テ違  
警罪ノ處分ヲ爲シ候向モ有之候處右ハ同規則第二十二條ノ裁制ヲ適用可相成  
筈ニ付相當法衙ニ告發スル儀ト心得ヘキ旨其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條此  
旨心得ヘシ

### 第三章 他府縣人民ニ對シ前料取調ヲ要スル手續

○本達乙第五十號 明治二十年四月十五日 警察署

他府縣人民ニ對シ前料取調ヲ要スル節ハ各所轄警察署  
（岐阜縣ハ同縣警察本部警務  
課三課ハ同縣警察本部第  
二課京都府ハ同府警察本部第三課埼玉縣ハ警  
視廳千葉縣ハ同縣警察本部警務課又ハ警視廳）ヘ向ケ司法警察事務取扱内則第四十八條  
第一項ノ手續ニ準シ前料問答紙ヲ發遣スヘシ

### 第四章 神佛教師等犯罪處分方管長ヘ照會シタル片

○内達乙第三號 明治廿年一月十二日 警察署

#### 通報方

神佛教師及寺院住職タル者犯罪ノ處分ヲ受ケ若クハ行政上妨害ノ行爲アリト  
認ムル者ハ相當處分方直ニ該管長ヘ照會ス可キ旨内務大臣ヨリ訓令相成候條  
右ニ該當スル者有之節ハ其都度本部ヘ報告スヘシ

### 第五章 監視

#### 第一款 監視ノ執行ヲ終ヘサル被告事件裁判所本部 部出張所ニ送

致ノ片心得

○本達乙第八十七號 明治二十年七月八日 警察署

被告事件ヲ裁判所又ハ本部出張所ニ送致スルニ方リ爰ニ裁判官渡ヲ受ケタル  
監視ノ執行ヲ終ヘス又ハ全ク執行ヲ爲サ、ル者ニ就テハ別紙様式之通取調意  
見書ノ次ニ編綴シ共ニ送致スヘシ



別紙様式	
前判殘監視取調表	
被告人	「何 某」
最終ニ謹慎ヲ表シタル年月日	監視 期限
明治「何」年「何」月「何」日	監視 「何」月
今回逮捕セシ年月日	明治「何」年「何」月「何」日起
明治「何」年「何」月「何」日	明治「何」年「何」月「何」日満

第二款 被監視人旅行ノ途中事故アリ証明ヲ請フ者

アルキ通知府縣名

○本司乙第四九二號 明治廿年九月十五日 各警察署  
 被監視人旅行ノ途中事故アリテ臨時滯留ノ証明ヲ請フ者アルキハ其証明書ヲ  
 附與スルト同時ニ監視執行地警察署又ハ分署ニ通知スルコトニ相定メタルニ付  
 右通知ナキモノハ都テ相當ノ手續ヲ經ス滯留シタルモノト了知スヘキ旨滋賀  
 縣外數府縣ヨリ通知有之本年五月九日全七月四日ノ兩度ノ會議録ヲ以テ御通  
 知ニ及ヒ置キ候處尙又今回熊本縣警察本部ヨリ前文同様ノ通知有之候間御了  
 知有之度此段及御通知候也  
 (廿年五月七日全七月四日會議録抜萃)

- |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 岡山縣 | 山形縣 | 兵庫縣 | 京都府 | 高知縣 | 廣島縣 | 静岡縣 |
| 岐阜縣 | 茨木縣 | 山口縣 | 三重縣 | 鳥取縣 | 福井縣 | 山梨縣 |
| 愛媛縣 | 青森縣 | 福岡縣 | 秋田縣 | 滋賀縣 | 愛知縣 | 石川縣 |
| 富山縣 |     |     |     |     |     |     |

第三款 感化保護院ニ入ルヘキ視監視人認印方

○本達乙第百卅八號 二十年十二月廿八日 天王寺警察署



監視ニ付セヨレタル者ニシテ感化保護院ニ入ルヘキ者ハ監獄ヨリ其署ニ直送スルニ付其送付ヲ受ケタル片ハ通常ノ規則ニ從ヒ監視表ヲ下付スヘシ其刑法附則第廿七條第一項ノ場合ハ出頭セシムニ及ハス毎月二回相當官ヲシテ該院ニ臨監セシム便宜認印ヲ與ヘシム可シ

**第六章 留置場未已決者取扱方**

第二課 八現時第三課

○内達乙第九號 明治二十年三月十五日

第一課 第二課 警察署

警察署ニ属スル留置場ニ於テ往々拘留者未決者又ハ換刑禁錮者等ヲ混同雜居セシム或ハ適宜ノ法ヲ以テ之ヲ遇スルカ如キ向モ有之不都合ニ付自今未已決者ノ區域ヲ嚴劃シ夫々成規ニ從ヒ取扱候様注意ス可キ旨今般其筋ヨリ訓令ノ次第モ有之候條此旨心得ヘシ

**第七章 違警罪**

**第一款 違警罪即決事務取扱手續中追加**

(第九編百六十四條ニ在リ)

○本達乙第百十六號 明治二十年十月廿四日 警察署  
 明治十八年十月本甲第九十一號違警罪即決事務取扱手續第七條ノ次へ左ノ一條ヲ追加ス

第十一條 違警罪事件ヲ處理スル爲メ別紙擬定ノ用紙ヲ以テ違警罪事件

用紙半紙 簿ヲ製シ受理結局其他ノ事由ヲ各欄ニ就キ登記スヘシ 「印ハ朱書		署長「○」	主任官「○」
受理	「何年」「何月」「何日」	「何年」「何月」「何日」	「何年」「何月」「何日」
罪名	「何々」	「何年」「何月」「何日」 「何々ニ依リ科料何錢(又ハ拘留何日)」	「何年」「何月」「何日」 「何々ニ依リ科料何錢(又ハ拘留何日)」
被告	「住所(又ハ)」「官氏名」	「住所身分職業」 「氏名」 「年齢」	「住所身分職業」 「氏名」 「年齢」
備考	「証據ハ何々、何月何日何々ニ付棄却又ハ免訴、何月何日何々ニ付拘留何日ニ換フ、何月何日正式裁判ヲ請求シタリ、何月何日何署へ囑託ス、何署ノ囑託ニ係ル」		







三傳六十八

但明治十八年八月本甲第八十二號通達及明治十九年四月本甲第五十一號達ハ自今廢止ス

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第 區 派 出 所

諸 稅 則 違 犯 者 宣 告 者 犯 違 則 稅 諸												
備 考	犯 物 員 數 件 則	職 業	住 所	告 發 年 月 日	囑 托 及 消 滅 其 他 起 訴 ノ 手 續 ヲ 爲 サ	處 分 セ ン 裁 判 所 又 ハ 警 察 署 名	罪 名	所 爲	刑 名	宣 告 年 月 日	追 徴 員	沒 收 品

第九編司法 諸稅則違犯者及賣藥自用者處分收稅部へ通知 二百六十九



○本達乙第八十二號 明治二十年六月三十日 警察署

明治十九年十月大藏省令第三十一號ニ依リ處分シタル者アル片ハ本年本達乙第十一號ニ準據シ本府收稅部ニ通報スヘシ

但本令發布以來處分シタルモノハ此際取纏メ通報スヘシ

第八章 證據品取扱内則中改正

(前編第九編三十二丁ニ在リ)

○本達乙第百十四號 明治廿年十月十二日

第三課 第四課 警察署

明治十八年五月本甲第五十三號證據品取扱内則中左ノ通改正及刪除追加ス

本則中三部四部トアルハ三課四課トス

第四條 但書追加

但請求ノ念慮アルモノハ前條ニ依リ領受書ヲ下付スヘシ

第六條 但書追加

但物主又ハ居人ニ於テ期滿免除間領置ノ後物品ノ返還又ハ給付ヲ求ム

ルモノハ送付書中ヘ必ス其旨朱記スヘシ其記載ナキモノハ總テ請求ノ

念慮ナキモノト見做シ滿期後官沒スヘシ

第八條 經テ下「處分方ヲ稟議スヘシ」ノ九字ヲ刪リ「相當處分ス可シ」ト

改ム

第十條 必要トスル片ハ下「稟議ノ上處分メヘシ」ノ九字ヲ削リ「本則ニ

依リ證據品ヲ以テ取扱フ可シト」改ム

第十三條 處分ノ下「方ヲ稟議」ノ四字ヲ刪除ス

第十七條 改正

總テ官沒スヘキ物件ハ目錄書ヲ製シ第四課ヘ送付スヘシ郡部警察署ハ公

賣ノ上落札人ノ住所氏名物品代價ヲ詳記シタル明細書(第七式)ニ仕譯書(第八

式)ヲ添ヘ第三課ヘ送付スヘシ同課ハ第四課ヲ經テ速ニ會計課ヘ交付ノ

手續ヲナスヘシ

但官沒品ハ第三課ハ毎月郡部警察署ハ三ヶ月毎ニ取調フヘシ

第十九條 改正

官沒金ハ郡部各署ハ三ヶ月毎ニ之ヲ取調ヘ(第八式)ノ仕譯書ヲ添ヘ第三課

ヘ送付スルモノトス又同課ニ在テハ毎月同課及郡部警察署ノ官沒金ヲ合

集シ取扱主任之納金證ヲ添ヘ第四課ヲ經テ本府會計課ヘ交付ノ手續ヲナ

スヘシ

第二十條 刪除

第七書式 改正

第八書式 結文改筆

右官沒賊置捨品公賣ノ上明細書(又ハ官沒賊置捨金)及御送付候也



參照

第四條 物主分明セサル拾遺品ニシテ證據トナルヘキモノ及ヒ些少ノ物  
件ハ其届出ヘ下付セサル旨說示スヘシ  
但請求ヲ考慮アルモノハ前條ニ依リ領受書ヲ下付スヘシ

第六條 證據品ヲ第三課ヘ送付スル片ハ其送付書(第三書式)ニ左ノ書類ヲ添

付スルシ

○川○物○主○又○ハ○唐○人○ニ○於○テ○期○滿○免○除○簡○領○置○ノ○後○物○品○ノ○返○還○又○ハ○給○付○ヲ○求○ム○ル○モ○ノ○ハ○送○付○書○中○ヘ○必○ス○其○旨○朱○記○ス○ヘシ○其○記○載○ナキ○モ○ノ○ハ○總○テ○請○求○ノ○念○慮○ナキ○モ○ト○見○做○シ○滿○限○ノ○后○官○沒○ス○ヘシ

第八條 賊拾遺品ニシテ現品保存ヲ必要トセサルモノ(襦子衣類)ハ證明書(第四書式)ヲ作り他日ノ證據ニ供ヘ該品ハ物主ニ還付シ其物主不分明ナル

片ハ大阪市街各署(天王寺會場附屬署)ハ第三課ヘ送致シ

領置ス本條ノ物件ハ一年ヲ經テ相當處分スヘシ

第十條 贓品若クハ證據品其他犯罪ノ豫備ノ爲メ藏匿シタリト認ムル物

件ヲ拾得届出タル片ハ遺失物取扱規則ニ從フヘシト雖モ現品保存ヲ必

要トスル片ハ本則ニ依リ證據品ヲ以テ取扱フ可シ

第十三條 第三課ニ於テ證據品ヲ送致フ受テタル片ハ被害ノ事實ヲ記載

シタル符標(第六書式)ヲ付シ倉庫内ニ陳列シ保存期限(重罪十年 輕罪三年)後處分(方ヲ稟議)ス可シ

第十七條 巡查ノ得タル賊置拾品及ヒ官沒スヘキ物件ニシテ保存期限後稟議之上公賣シタル片ハ其落札人ヨリ物品ト代價ヲ詳記シタル受書及ヒ納証書ヲ徴スヘシ

第十九條 那部各署ハ公賣金及ヒ官沒金ノ仕譯書ニ落札人ノ受書及ヒ納証書ヲ添ヘ其時々第三課ヘ送付スヘシ

第二十條 第三部ハ毎年一月七月ノ兩度ニ總テノ公賣金及ヒ官沒金ヲ取纏メ仕譯書ヲ調製シ落札人ノ受書及納証書ヲ添ヘ第四部ヲ經テ會計課ヘ送致スルノ手續ヲ爲スヘシ(原文)

一第七書式

納 證 書

一金何程

何品何圓

一品毎ニ格別ニ記載ス

右相續條也

住 所



年月日

氏名印

第八書式

右ハ官沼賊置捨品何々年領置候處物主不分明ナルヲ以テ公賣ノ上代金及御送付候也

第十編 外國人關係

第一章 清國人雇使者申報并籍牌調查

○本達乙第四十一號 明治二十年三月廿六日 警察署水上署ヲ除ク

清國人ヲ雇使セルモノアラハ吏員其家ニ臨ミ左項ノ條件ヲ尋問シ速カニ申報スヘシ

但其之レナキ向ハ其旨申出ヘシ

- 一 國所姓名年齢
  - 一 被雇入ノ年月日
  - 一 雇入期限
  - 一 俸給
  - 一 雇入目的
  - 一 籍牌所持ノ有無
- 若シアラハ其記載ノ年號(光緒何年)
- 一 雇主住所姓名身分職業若シ結社ニ係ル者ハ社名社主ノ姓名
  - 一 雇入ニ付雇主ヨリ府廳ヲ經テ外務省ヘ届出ツレハ其年月日
- 本達乙第七十八號 明治二十年六月廿五日 區部會 警察署  
天堺
- 一般人民ニ於テ外國人ヲ雇使スルニハ外務省ヘノ届出ヲ要スルハ勿論ニシテ



假令其屆滿ノモノタリトシ之レヲ居留地并雜居地外ニ寄寓セシムルニハ是亦出願許可ヲ得サル可カラス候處右等ノ手續ヲ知ラサルニヤ清國人ノ雇使者ニシテ往々無願ニ打過シ候モノ有之趣ニ相聞ヘ候果シテ右等ノモノ有之候得ハ速ニ府廳ニ出願スヘシ候處主ニ嚴達シ一面報告スヘシ

○本達乙第五十八號 明治二十年

區部台 警察署 水上署 天塚 警察署 下除ク

我邦渡來ノ清國人戶籍調査ノ爲メ所管理事府ニ於テ毎年籍牌ナルモノヲ付與致來候往々處住々之レヲ領有スルノ手續ヲ爲サ、ルモ不抄趣ニ付自今在神戶清國理事府ノ發行ニ係ル光緒十三年(本)分ノ籍牌ヲ領有セサルモノハ邦人ニ於テ一切雇使スルヲ得サヲシメントス因テ戶口調査又ハ便宜ノ手續ヲ以テ屢々之レヲ調査シ若シ前記ノ規程ニ抵觸セルモノハ直ニ解雇ヲ命シ受書ヲ徵シ一面族籍姓名等ヲ具シ申報ス可シ

但本達乙第四十一號ニ依リ申報シタルモノ中本文ニ抵觸セルモノハ本部ニ於テ既ニ此旨ヲ命達シ本月三十日迄ニ其之レヲ領有シ來ラサルモノハ一切雇使セストノ受書ヲ徵セリ一族籍姓名年齡籍牌付與ノ年月日及雇主住處姓名雇入月俸給等ヲ採録シタル名簿ヲ調製シ出入ノ隨時加除スヘシ

第十一編 會計

第一章 警察署會計定則中改正

(前編第十一編) 第一丁ニ在リ

○本達乙第七十九號 明治二十年六月廿五日

警察署

明治十九年<sup>十一月</sup>本達乙第七十六號警察署會計定則中第十九條第三項第四節支出スヘシノ下左ノ通増補ス

ト雖モ實際止ヲ得サルモノハ此限ニアラス

参照

第四節 臨時人夫ヲ雇入タル日ハ日給金二十錢以内ヲ以テ支出スヘシト雖モ實際止ヲ得サルモノハ此限ニアラス

○明治二十年本達乙第二百二十二號中拔萃

明治十九年十二月廿三日本達乙第七十六號達收入ノ部中科目未項手数料ノ三字ヲ刪除ス

第二章 給與

第一款 巡查看守給助細則

● 應達第二十三號 明治二十年三月廿五日

第二部 警察本部

明治十五年第四十一號公達ニ據リ巡查看守給助細則左ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

第四十一號公達 八前編附錄甲編 五十一丁ニ在リ



巡查看守給助細則

第一條 給助ハ退職給助傷痕給助死亡給助療治料祭祀料トシ以下各條ニ依リ支給ス

第二條 給助ヲ與ル者ハ左ノ各項ニ依ル

一 退職給助

一 勤績滿五年ノ者ハ一時金二十五圓ヲ給シ滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金四圓ヲ増給ス

二 勤績十年ノ者ハ年金二十八圓ヲ給シ滿十一年以上一年毎ニ金一圓ヲ増給ス

一 傷痕給助

一 一等傷年金三十五圓ヲ給ス

二 二等傷年金二十五圓ヲ給ス

一 死亡給助

一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アル片ハ年金四十圓ヲ給ス

二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受クル者ナク祖父母又ハ二十歳未滿ノ弟妹

ニシテ死者ニ依リ從來ノ生計ヲ爲セシ者アル片ハ一時金七十五圓ヲ給ス

三 相續者タル孤兒二十歳ニ至ルモ癡篤疾ナル片ハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金七十五圓ヲ給ス

一 療治料ハ傷痕又ハ疾病ノ輕重ニ依リ一日金一圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一 祭祀料

一 奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金十三圓ヲ給シ滿一年以上一年毎ニ金四圓ヲ増給ス

二 職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項ノ外一時金七十五圓ヲ給ス

第三條 年金支給計算法ハ退職及死亡者ハ其翌月傷痕者ハ傷等策定ノ翌月ヨリ支給ス其給與ヲ止ムル時ハ日割ヲ以テ計算支給スルモノトス

第四條 退職給助ト傷痕給助トハ併行フモノトス

第五條 本例實施前ノ勤績年數ハ之ヲ通算ス

但巡査ハ明治八年十月巡査ト改稱看守ハ明治十四年三月看守ト改稱ノ月ヨリ起算シ其後一旦打切滿年賜金ヲ得タル者ハ更ニ其月ヨリ起算ス

第二款 巡查看守給助例施行順序

● 廳達第廿四號 明治二十年三月廿五日

警察本部

巡查看守給助例施行順序左ノ通相定

巡査給助例施行順序



第一條 給助ヲ出願スルモノハ左ノ手續ヲナスヘシ  
 一年金ヲ受クヘキ者(退職及傷疾者)ハ別紙第一號書式ノ願書ニ其郡區戸長ノ  
 奥印ヲ受ケ當廳ヘ出願スヘシ  
 二一時給助金ヲ受クヘキ者(祖父父母兄弟並孤兒)ハ別紙第三號書式ノ願書ニ  
(滿二十歳以上廢篤疾者)  
 親族二名(親族ナキハ其事由ヲ記スヘシ)ノ連署ヲ以テ其郡區戸長ノ奥印ヲ受ケ當廳ヘ出  
 願スヘシ  
 三療治料ヲ請求スヘキ者ハ(數月ニ亘ルモハ毎月末日マテノ分)別紙第五號書式ノ請求書ニ主  
 治醫ノ診察料手術料並藥價書等ヲ添ヘ巡查ハ本屬課署長看守ハ典獄ニ出  
 シ課署長若クハ典獄ハ審査ノ上其事由證明書ヲ添付シ之ヲ本屬部長ニ進  
 達スヘシ  
 但官ノ治療ヲ受クルモノハ該費用證書等取繼メ課署長ヨリ稟請スヘシ  
 第二條 本例ニ依リ年金及ヒ一時給助金ヲ受クル者ニハ第六號書式ノ證票又  
 ハ辭令書ヲ付與ス  
 第三條 年金ハ每會計年度二回(前半年度分ハ九月 后半年度分ハ三月)管内ハ郡區役所其他ハ本人  
 所在ノ管廳ヲ經テ下付スヘシ  
 但受給者ハ第八號書式ノ領收證書ニ所在郡區戸長ノ奥印ヲ受ケ證票ヲ添  
 ヘ差出スヘシ

第四條 年金ヲ受タル者十五年第四十一號公達第八條第九條ノ各項ニ該ルカ  
 又ハ轉籍轉住死亡再婚等戸籍上異動アル片ハ原籍所在郡區戸長ノ奥印ヲ受  
 ケタル書面ヲ以テ一ヶ月以内必ス届出スヘシ但公權剝奪若クハ死亡再婚等  
 ニ係リ給助ヲ受クルノ權理消滅シタル時ハ該届書ニ付與シタル證票ヲ添ヘ  
 返納スヘシ  
 第五條 傷疾給助ヲ受クヘキ者負傷又ハ傳染病ニ罹リ若クハ負傷ニ原由シ死  
 亡シタル者ノ診斷及ヒ策定ノ場合巡查ハ本屬課署長看守ハ典獄若シクハ看  
 守長立會見證スルモノトス但傳染病ニ罹リ急遽ノ場合ハ本條ノ限リニアラ  
 ス  
 第六條 前條醫員ノ診斷書及ヒ策定診斷證書ハ別紙第九號書式ニ依リ二通ヲ  
 製シ一通ハ其見證ヲ了セシ事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ本屬部長ヘ報告シ  
 一通ハ本人ヘ交付スヘシ  
 但開業醫ノ診斷ニ就キ疑フヘキモノアル片ハ更ニ府立病院醫員ヲシテ其  
 診斷ノ當否ヲ判定セシムルコトアルヘシ  
 第七條 給助細則第二條死亡給助第三項ニ該ルモノ給助ヲ出願スル場合ニ於  
 テハ其最寄公立病院又ハ開業醫ノ診斷書ヲ添ヘ年金ヲ廢止シタル翌月中ニ  
 出願スヘシ



第八條 年金證書盜難若クハ水火災等ニテ亡失シタル片ハ其事由ヲ詳記シ速ニ届出再渡ヲ請フヘシ

第一號 用紙美濃紙

場願給助願

私義

何月何日退職候處滿何年間勤績(或ハ何月何日職務上負傷候處何等傷ニ策定相成)候就テハ相當ノ給金下賜度(或ハ別紙策定診斷書相添ヘ)此段奉願上候也

年月日

何府何郡何村何番地族籍  
元何々館巡查又ハ看守

何 某 印

大坂府知事何某殿

右當郡内本籍ノ者ニ相違無之候也

何郡長

何 某 印

年月日

何町戸長

何 某 印

第二號 用紙美濃紙

孤兒給助願

私(夫又ハ)何某義巡查(看守)奉職中何々ノ爲メ何月何日死没候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度別紙死亡診斷書及戸籍書相添ヘ此段奉願上候也

何府何郡何村何番地族籍

故何某寡婦又ハ孤兒

何 某 印

何年何月生

同

親族 何 某 印

同

同 何 某 印

大阪府知事何某殿

右當郡内本籍ノ者ニ相違無之候也

何郡長

何 某 印

年月日



第三號

用紙美濃紙

死亡給助願

今般巡查(看守)何某職務ノ爲メ(或ハ負傷後)何年何月何日死亡候處私共義從  
來死者ニ因リ生活罷在候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度別紙死亡診斷書及籍戸  
籍書相添へ親族連署ヲ以テ此段奉願上候也

何府何郡何町何番地族籍

故巡查何某祖父父母  
又ハ弟妹

年月日

何某 印

同

親族 何某 印

同

同 何某 印

大坂府知事何某殿

右當郡内本籍ノ者ニシテ前書之通相違無之候也

何町戸長

何某 印

第四號

用紙美濃紙

癩疾薦給助願

明治何年何月ヨリ年金御給與相成居候處本月ヲ以テ滿二十歳ニ至候得共癩薦  
疾ニ有之候間相當ノ給助金御下付被成下度別紙醫員診斷書相添へ此段奉願候  
也

私義

何郡長

何某 印

何町戸長

何某 印

年月日

何某 印

何年何月生

同

親族 何某 印

同



大阪府知事何某殿  
右當郡内本籍ノ者ニ相違無之候也

同 何 某 印

何 郡長

何 何 某 印

何 何 某 印

第二第三號 戶籍書式 用紙美濃紙

戶 籍 書

族 籍 華士族平民

職 業 何々(無業)

戶 長(次) 主 何年何月何日相續  
或ハ別家養(實)子

誕生年月日 年號何年何月何日生

本籍住所 何府何郡何區何村何番地全居  
或ハ何某方

寄留住所 同

何 某

現年何年何ヶ月

父母	某 年號何年何月何日生
養 母	全 全
祖 母	全 全
妻	某 何府何郡何區何村何番地何某何女何年何月何日入籍 年號何年何月何日生 全 結婚
嗣 子	某何年何月何日生
次 男	某 全
次 女	某 全
兄 弟	全 全
姉 妹	全 全
右當郡内戶籍簿之通相違無之候也	
何 郡長	
年 月 日	
何 某 印	
何 郡長	
何 某 印	
何 某 印	



第五號

用紙美濃紙

療治料請求書

一金何程印

此譯

金何程印

但何月何日ヨリ何月何日迄藥價書別紙何通

金何程印

但診察(手術)料別紙何通

右ハ何月何日職務上負傷(或ハ傳染病ニ罹リ)候ニ付療治料御下渡被成下度此段及請求候也

何々詰

巡査  
看守

何 某 印

大坂府知事何某殿

第六號

何府縣族籍

元巡査  
看守

何 某

何年何月生

給助之證 第何號

右ハ清何年間勤續(故巡査看守何某)候ニ付年金何圓ヲ給與ス依テ此證ヲ付與ス  
職務ノ爲負傷(職務ノ爲死亡) 候ニ付年金何圓ヲ給與ス依テ此證ヲ

何府縣族籍故巡査看守何某妻(長男又ハ) 何 某

何 某

何年何月生

契印

何府縣族籍

元巡査  
看守

何 某

何年何月生

何府縣族籍故巡査看守何某妻(長男又ハ) 何 某

何 某

何年何月生

右者清何年間勤續(故巡査看守何某)候ニ付年金何圓ヲ給與ス依テ此證ヲ付與ス  
職務ノ爲負傷(職務ノ爲死亡) 候ニ付年金何圓ヲ給與ス依テ此證ヲ

明治何年月日

大坂府知事何某印



第七號 用紙奉書紙

滿何年勤給候ニ付退職給助金何圓支給ス

年月日

元巡査 何 某

大 阪 府

故巡査 何 某

遺 族

當府巡査(看守)奉職中職務ノ爲メ死亡候ニ付(一時給助金何圓)祭祀料金何圓支給ス

年月日

大 阪 府

何府縣族籍

何 某

故巡査(看守)何某當府奉職中職務ノ爲メ死亡候ニ付明治何年何月ヨリ年金支給候處滿二十歳ニ至リ癩(馬)疾ナルヲ以一時給助金何圓支給ス

年月日

大 阪 府

第八號

領受證

一金何程印

但何々給助金明治何年何月ヨリ何月迄御給與ノ分  
右正ニ領受仕候也

年月日

何府何郡何町何番地族籍

元巡査(看守) 何 某 印

故巡査(看守)何某寡婦孤兒

何 某 印

大坂府知事何某殿

右ハ現今當郡内本籍(或寄留籍)居住ノ者ニ相違無之候也

何郡長

何 某 印

何町戸長

何 某 印

一寄留籍ニ於テ受取ヘキモノハ原籍ノ左傍ニ寄留地ヲ併記スヘシ  
一一時賜金ヲ受クル者領受書ハ此書式ニ準傲ス尤郡區長及戸長ノ奥印ヲ要セ

第九號



















二十年本達乙第  
百二十二號ヲ以  
テ及車馬ノ三字  
並ニ但書ヲ追加  
ス

### 第三章 人力車及馬車營業者ヨリ徵收スル手数料取扱手續

○本達乙第百十五號 明治二十年十月廿四日

警察課

人力車及馬車營業者ヨリ徵收スヘキ手数料ハ本月一日以後地方稅警察費雜收  
入へ手数料ノ一科目ヲ増設シ之ニ收入シ檢査証及鑑札ノ調製費ハ警察費中廳  
費雜費筆墨ノ費用ハ需用費筆工料ハ雇給ヨリ支給スル義ト心得ヘシ  
但收入金ハ翌月十日迄本部第四課へ送付スヘシ

### 第四章 爲替券封入ノ公用狀書留廢止

○本達乙第八十五號 明治二十年七月五日

郡部警察署

明治十五年(八月)四發第六一五號通達ヲ廢止ス

参照

○四發第六一五號 明治十五年八月廿三日

郡部警察署

各署ヨリ本署へ差立候金錢爲替券等ヲ封入スル公用狀ノ儀ハ以來親展ヲ以  
テ主務ノ部長宛ニシテ書留ヲ以テ可差出此段及通達候也

### 大阪府警務規程續編終

### 大阪府警務規程續編附錄甲編

#### ○保安條例

朕惟フニ今ノ時ニ當リ大政ノ進路ヲ開通シ臣民ノ幸福ヲ保護スル爲ニ妨害ヲ除去シ安寧ヲ  
維持スルノ必要ヲ認メ茲ニ左ノ條例ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム  
勅令第六十七號 明治二十年十二月廿五日

#### 保安條例

第一條 凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十  
圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ

內務大臣ハ前項ノ秘密又ハ集會又ハ會集條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯結通信ヲ阻遏  
スル爲ニ必要ナル豫防處分ヲ施スヨリテ得其處分ニ對シ其命令ニ違犯スル者罰前項ニ同シ

第二條 屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ム  
ルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁及教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタ  
ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附加隨行シ  
タル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帶セシメタル者又ハ各自ニ携帶シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條 內亂ヲ陰謀シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖書ヲ印刷又ハ板刻シタ  
ル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收



スヘシ

印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ル、コトヲ得ス

第四條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得

退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ付ス  
監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

第五條 人心ノ動亂ニ由リ又ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其一地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得

一凡ソ公衆ノ集會ハ屋内外外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ豫メ警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事

二新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事

二特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

### 四旅人ノ出入ヲ檢査シ旅券ヲ制シ設ケル事

第六條 前條ノ命令ニ對スル違反者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第七條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

### ○集會條例

○第十二號布告 明治十三年四月五日

集會條例別冊之通被定候條此旨布告候事

### 集會條例

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スル事者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタル片モ全條タルヘシ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアルハ社中ノ事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ  
前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サント

十五  
年  
第  
七  
號  
布  
告  
以  
テ  
正  
各  
條  
ヲ  
改  
正  
追  
加



スル片ハ仍ホ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日  
日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クル片ハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スル片  
ハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害アリト認メル片ハ之ヲ  
認可セス又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ證ヲ検査シ會場ヲ監  
視セシムルコトアルヘシ

警察官會場ニ入ル片ハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アル片ハ結社集會ニ關スル事ハ何  
事タリトモ之ニ答辨スヘシ

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セザル片講談論議ノ届書ニ掲ケサル事項ニ亘ルト  
キ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキ及集  
會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去ヲ命シテ之ニ從ハサルトキハ全會ヲ解散セシムヘシ  
前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命シタルトキ地方長官東京ハ警視長官ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一個  
年以内管轄内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解社  
セシムルヲ得内務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一箇年以内全國内ニ於テ公然  
政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルヲ得

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警  
察官官立公立私立學校ノ教員生徒農工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スル  
ヲ得ス

第八條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シ  
テ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連結通信スルコトヲ得ス

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スヲ得ス

第十條 第一條ノ認可ヲ受スシテ集會ヲ催スモノ會主ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ  
十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ  
各二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條ニ依ル

第十一條 第二條第一項ノ規程ニ背キテ届出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサル  
トキ社長ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ届出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ偽答スル  
トキ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十二條 第五條ノ規程ニ背キテ派出警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサル  
トキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁  
獄ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘス又ハ偽答スル者ハ全罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ十圓以上百  
圓以下ノ罰金若クハ二月以上二十年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十三條 派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙退散セサル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰



金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦全罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルキハ之ニ監臨スルコトヲ得若シ其監臨ヲ肯セサルトキハ第十二條ニ依テ處分ス

第十七條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルトキハ第六條ニ依テ處分ス

第十八條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハヌ又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十九條 成法ニ制定スルノ集會所ハ此限ニ在ラス

○官吏講談演說禁制

○達無號 明治十二年五月九日

凡ソ官吏タル者其職務ニ係ル外政談講學ヲ目的トシテ公衆ヲ聚メ講談演說ノ席ヲ開ク等不都合ノ儀ニ付右等之義無之様各長官ニ於テ取締可致此旨相達候事

○集會條例犯則ノ軍人並生徒處分方

○陸軍省乙第三十二號 明治十三年五月五日

今般集會條例御發行相成候ニ付テハ陸軍々人並ニ諸生徒ニシテ右條例ノ制限ヲ犯ス者ハ總テ地方裁判所ノ處分ニ屬スル儀ト可相心得此旨相達候事

○集會條例犯則者届出方

○内務省番外 明治十三年五月六日

這回集會條例御發行ニ付テハ該條例ニ觸レ警察官ニ於テ處分セシ分並罰料ニ處セラレタル分共其時々事由詳細當省へ可届出此旨相達候事

○學校生徒入社臨會等禁止

○文部省達 明治十六年二月廿四日

學校生徒ニシテ政事ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會へ臨會シ又ハ其社ニ加入スル件ハ既ニ公布ヲ以テ禁止相成居候處近來生徒中往々心得違ノ輩アリ窮カニ臨會等ナス哉相聞へ教育上不都合ノ至有之候右府知事縣令ニ於テ嚴ニ取締可致ハ勿論ニ候得共尙各學校長教員等



ニ於テ平常注意ヲ加ヘ右等ノ義無之檢訓戒可爲致此旨相達候事

○府縣會議員聯合集會等ノ禁

○第七十號布告 明治十五年十二月廿八日

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス

其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

●新聞紙條例

○勅令第七十五號 明治二十年十二月廿八日

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳東京府ハ警察廳

經由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相簽スルコトヲ得ス



第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳東京府ハニ納ムヘシ

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ參百五十圓

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノヨリ記載スル者ハ本條ノ限ニアラス

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ

納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方

長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人編輯人印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ

發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者

ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ及管轄始審裁判所檢事局ニ

各一部ヲ納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ

正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發

行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文

ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價

ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ

正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ルハトキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサル

トキハ掲載スルヲ要セス

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ

正誤書辨駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル

後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコ

トヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於

テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關ル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ

得ス

傍聽ヲ禁メタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸ルル罪犯又曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス



刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スル  
コトヲ得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略  
キ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ  
得ス

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其發行  
ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布  
ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト  
認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコ  
トヲ得

第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル  
事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押  
フルコトヲ得

裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署  
名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スルモノニアラズシテ他ニ主任編輯人ア  
ルコトヲ証明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシ  
テ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ  
除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルト  
キハ被告人ニ事實ヲ証明スルコトヲ許スコトヲ得若キ証明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ  
罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セ  
サルトキハ保証金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル

保証金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳東京府ハノ通知ヲ得タ  
ル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ル  
テ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サヌ又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二  
條ヲ犯シ又ハ保証金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保証金ヲ納メズシテ發行シタルトキハ發行  
人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ



第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保証金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ヲ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人、編輯人、印刷人、一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者少告訴ヲ待チ其罪ヲ論ス

第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期限免除ハ六箇月トス

第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

●出版條例

○勅令第七十六號 明治二十年十二月二十八日 出版條例

第一條 凡ソ機械含密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若クハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此條例ニ依ルヘシ但雜誌ニシテ專ラ學術技藝ニ關スル事項ヲ記載スルモノハ内務大臣ノ許可ヲ得テ此條例ニ依ルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達シ得ヘキ日數ヲ除キ十日前製本三部ヲ添ヘ内務省ヘ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本三部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但非賣品ハ著作者



ノヨニテ届出ルコトヲ得  
 著作者又ハ其相續人ヲ知ルヘカラサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出ヘス  
 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版セル文書圖書ノ届ハ其學校會社等ヲ代表スル者發行者ト連印レテ之ヲ差出スヘシ  
 第六條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作者又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ルコトヲ得  
 第七條 文書圖書ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハス印刷ノ年月日及印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所ヲ併セテ記載スヘシ  
 第八條 社則塾則引札諸藝ノ番付普通ノ書式アル諸種ノ用紙又ハ證書ノ類ハ第三條第六條ニ據ルヲ要セス  
 第九條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省畧スルコトヲ得  
 第十條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖モ若シ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ第三條ニ依ルヘシ  
 第十一條 演說若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演說者若クハ講義者ヲ以テ著作トス但演說者若クハ講義者ノ許諾ヲ經シテ出版シタルモノニ關シテハ其演說者若クハ講義者ノ著作ノ責ニ任ゼス

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演說ハ其講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權條例ニ依リ其責ニ任セシム  
 第十二條 數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲スモノハ編纂者ヲ著作ト見做スヘシ  
 前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用スヘシ  
 第十三條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ但翻譯トハ漢文ヲ延譯スルモノヲモ包含ス  
 第十四條 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版セル文書圖書ハ其出版届ヲナス者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ  
 第十五條 公ニセサル官ノ文書及上詳建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳畧ニ拘ハラス之ヲ出版スルコトヲ得ス  
 官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳畧ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス  
 第十六條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得  
 第十七條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フル



トヲ得

第十八條 軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十一條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ年月日ヲ記載セサル文書圖書ヲ發行シタルトキハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條 印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若クハ記載スト雖モ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條 改體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ文書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者印刷者共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

圖書ニシテ其目的前項ニ同キモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條 猥褻ノ文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 文書圖書ヲ寫眞トナシ因テ第十八條第二十四條第二十五條ヲ犯ス者ハ各本條ニ依テ處分ス

第二十七條 本條例ニ依リ出版ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布スルトキハ發行者又ハ發賣頒布者罰前項ニ同シ但其未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第二十八條 第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢察官ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印本ハ裁判ノ確定ヲ待チ無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒收ス

第二十九條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十條 他人ノ講義演說ヲ筆記若クハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編纂シタル文書圖書ヲ出版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合ニ於テ講義者演說者若クハ著作者ニシテ其出



版ヲ承諾シタルモノナルトキハ筆記者若クハ編纂者ト同シク其罪ヲ論ス

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テ又專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ証明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其証明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ヌ其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ同シ

第三十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第三十三條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十四條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直チニ發賣頒布セスト雖モ其目的發賣頒布ニ在ル者ハ總テ此條例ニ依ル

○版權條例

○勅令第七十七號 明治二十年十二月二十八日

版權條例

第一條 凡ソ文書圖書ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其文書圖書ヲ翻刻スルヲ偽版ト云フ

第二條 出版條例ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者ハ總テ此條例ニ依リ其版權ノ保護ヲ受ルコ

トヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ント欲スルトキハ其由ヲ內務省ニ通知スヘシ

第五條 版權登錄ノ文書圖書ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條 內務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

登錄ヲ經タル文書圖書ハ內務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條 版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス  
講義若クハ演說ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲シタルモノ、版權ハ講義者若クハ演說者ニ屬シ若シ筆記者ニ於テ講義者若クハ演說者ノ許諾ヲ經テ出版スルトキハ筆記者ニ屬シ筆記者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス  
翻譯者ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス  
官廳學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其官廳學校等ニ屬スルモノトス



數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死  
亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但編纂者ト原著作者講義者演說者又ハ其相續者  
トノ關係ハ相互ノ約束ニ依ル

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスレテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登録證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其再度下付ヲ内務省ニ願出  
ルコトヲ得但手數料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若シ版權登録ノ月ヨリ  
死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍ホ三十五年ニ足ラサル時ハ版權登録ノ月ヨリ三  
十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス

官廳又ハ學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書並著作ノ死亡ノ後ニ  
出版スル文書圖書并著作ノ死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登録ノ月ヨリ  
計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ各號毎ニ其出版ノ月ヨリ起算  
ス但其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省畧スルコトヲ得

第十三條 版權ノ保護ハ其文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式

ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルガ爲メ變更スルコトナカルヘシ

第十三條 特ニ世ニ有益ナル文書圖書ニシテ版權年限間ノ利益其著作出版ノ勞力ト費用ト  
ヲ償ハサルノ事情アルモノニハ版權所有者ノ願出ニ依リ内務大臣ニ於テ仍ホ十年間版權  
保護ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十四條 文書圖書ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其版權相續者ナキコトヲ確信シ  
之ヲ出版セント欲スルトキハ其由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並其所有者居  
住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキ  
ハ内務大臣ノ許可ヲ受テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカヲサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニヨリ  
出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙又ハ雜誌ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記事又ハ小説ハ其編輯者  
ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲シ出版スル  
コトヲ得ス

其二年ヲ經ルト雖モ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登録ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂ス  
ルコトヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖書ヲ偽版シタル者ハ其版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任ス  
ヘシ其寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ



第十七條 偽版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但審理ノ末偽版ニアラスト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 偽版ニ關スル損害賠償ノ責ハ偽版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖書ヲ翻譯シ増減シ註解附録繪圖等ヲ加ヘ若クハ其未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及本條例第十五條ニ違フ者ハ偽版ヲ以テ論ス

他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其翻譯者ニ屬スト雖モ其原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ偽版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但其既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ証明スルモノハ此限ニアラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲メ故ヲニ版權所有ノ文書圖書ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名社號屋號等ノ類似シタル者ヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十二條 著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スル者亦偽版ヲ以テ論ス

第二十三條 文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其版權ヲ犯ス者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十四條 内國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ偽版シタルモノヲ輸入販賣スル者

ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十五條 偽版ノ訴アリテ其偽版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ビ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條 偽版ニ關スル損害賠償ノ責ハ其原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若クハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

偽版ニ係ル刻版及印木ハ其何人ノ手ニ在ルヲ問ハヌ之ヲ沒收シ其既ニ販賣シタルモノハ其賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖モ之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖書ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用サス

第三十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖書ヲ



最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十二條 現行ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル版權ノ年限ハ現行條例ニ據リ計算スルモノトス

●脚本樂譜條例

○勅令第七十八號 明治二十年十二月二十八日

脚本樂譜條例

第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權（即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權）ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ

第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

●寫真版權條例

○勅令第七十九號 明治二十年十二月廿八日

寫真版權條例

第一條 凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫眞ト云ヒ寫眞ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫眞版權ト云フ

第二條 寫眞版權ハ寫眞師ニ屬シ寫眞師死後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノ、寫眞版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

囑托ニ係ル寫眞ノ種板ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫眞師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス

第三條 寫眞版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫眞一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫眞ハ登錄ヲ待タスシテ其保護ヲ受ルモノトス

第四條 版權登錄ノ寫眞ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサルモノハ登錄ノ効ヲ失フモノトス



第五條 內務省ニ於テハ寫真版權登錄簿ヲ備置キ登錄ノ願出アリタル片ハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

寫真版權登錄證書ノ取扱ハ總テ又書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス

第六條 寫真版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス

第七條 寫真版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第八條 版權ノ保護ヲ受ルノ寫真ハ之ヲ覆寫シ若クハ器械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ増製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫真術ト類似ノ模寫ヲ爲シ及寫真師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ囑托ニ係ル寫真ヲ増製スルコトヲ得ス

第九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ權版登錄ヲ訴稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ偽版ヲ以テ論シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム

損害賠償ノ責ハ其原寫真ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス

第十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫真又ハ模寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス

第十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

請願規則

○第五十八號布告 明治十五年十二月十二日

第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ

第二條 郡區長及戶長職務内ノ事件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡區長戶長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ニ請願スルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務内ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサルモノハ太政官ニ請願スルコトヲ得

第三條 凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サヌ官署ノ求メニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戶長ニ請願スル者ヲ除ク外住所戶長ノ奥印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戶長ノ奥印ヲ受クルハ前ノ例ニ同シ

第五條 府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニアラス



第六條 請願書ヲ上呈スルニハ代人ヲ以テスルコトヲ許サス數人連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ヒ之ニ委託スヘシ

第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フヘシ

第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ

第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス

第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス

第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第八條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス

第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス

第十七條 條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス

其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十八條 請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

第二十條 請願ニ由リ人ヲ註告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス

○請願書用紙

○內務省第二號告示 明治十六年一月七日

明治十五年<sup>十二月</sup>第五十八號布告ニ據リ請願スル書面ハ美濃紙ヲ用ヒ正副二通宛指出スヘキモノトス但其書面ヲ却下スル場合ト雖モ副書ハ留置クアルヘシ此旨告示候事

○建白及建言ヲ名トシ官吏ニ面謁口陳ヲ求メ抗論喧擾ニ涉ル者處分方

○第五十三號布告 明治十三年十二月九日



凡ソ人民ノ上書一般ノ公益ニ關スルモノハ何等ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラヌ渾テ建白ト爲  
シ元老院ニ於テ取扱ヒ候條管轄廳ヲ經由シテ同院ニ差出スヘシ此旨布告候事

○内務省令第二號 明治二十年九月二十九日

凡ソ意見ヲ建言シ又ハ各自ノ利害ニ關シ請願スル者ハ明治十三年第五十三號布告及十五年  
第五十八號布告ニ依遵スヘキ處近來建言ヲ名トシ官吏ニ面謁口陳ヲ求メ從テ抗論喧擾ニ涉  
ル者アリ右等ハ何等ノ名義ヲ用ユルニ拘ラス其違犯者ハ總テ十五年第五十八號布告ニ依リ  
處分スヘシ

### ●文官試験試補及見習規則

○勅令第三十七號 明治二十年七月二十三日

#### 文官試験試補及見習規則

##### 第一 通則

第一條 本令ニ於テ文官ト稱スルハ奏任判任ノ文官ヲ總稱シ試補ト稱スルハ勅令第十三號  
學位令ニ依リ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケ又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部  
文學部ヲ卒業シ又ハ高等試験ヲ經當選シテ高等官ノ實務ヲ練習スル者ヲ云ヒ見習トハ官  
立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校  
及司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有シ及普通試験ヲ經當選シテ判任官ノ事務ヲ練習スル者  
ヲ云フ

本令ニ於テ司法官ト稱スルハ裁判官及檢察官ヲ總稱ス

第二條 第三條第四條ニ掲クルモノヲ除クノ外本令ニ依リ定規ノ試験ヲ經當選シタル者ニ  
アラサレハ試験及見習ニ任命スルコトヲ得ヌ又實務練習ヲ終リタル者ニアラサレハ本官  
ニ任スルコトヲ得ヌ

第三條 三年以上分科大學ノ教授ニ任シタル者ハ高等試験及實務練習ヲ要セス直ニ本官ニ  
任シ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケタル者又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部文  
學部ノ卒業生ハ高等試験ヲ要セス試補ニ任スルコトヲ得

司法官タルノ資格ヲ有スル者ニシテ他官ヨリ司法官ニ轉スルトキ又ハ司法官タルノ資格  
ヲ有シ三年以上代言人タル者ハ實務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第四條 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私  
立法學校及司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ普通試験ヲ要セス判任官見習ヲ命ス  
ルコトヲ得

第五條 試験ヲ分テ高等試験普通試験ノ二種トス  
高等試験ハ試補ニ任用セラレシコトヲ望ム者ノ爲ニシ普通試験ハ判任官見習ニ任用セラ  
レシコトヲ望ム者ノ爲ニス

第六條 試験ハ筆記口述ノ二様トス筆記試験ニ落第シタル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得  
ス



第七條 試験ハ筆記口述ノ二様ニ就キ各科目ノ點數ヲ合算シタル一定ノ平均點數ヲ以テ合格ヲ定メ時々官廳ノ需要ニ應シ人員ヲ限リ内閣ニ於テ合格者中ヨリ選抜シテ當選者ヲ定ム但一科目ニ付一モ點數ナキ者ハ合格者トスルコトヲ得ス

第八條 前條ノ選抜ニ當ラサル者ハ合格者ト雖モ再ヒ文官ノ任用ヲ望ムトキハ更ニ本令ニ依リ試験ヲ受クヘシ

第九條 試験ニ必要ノ参考書類及紙墨ハ試験室ニ備ヘ置キ受験人之ヲ携帶スルコトヲ許サズ

第十條 試験當選者ノ姓名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十一條 第九條ヲ犯シ若クハ不正ノ方法ヲ以テ當選シ他日其事ノ發覺シタルトキハ當選ノ効ナキモノトス

第十二條 第九條ヲ犯シタル者及第十一條ノ處分ヲ受ケ又ハ不正ノ方法ヲ以テ當選セント企テタル者ハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十三條 第十八條第二十三條第三十三條第三十六條ノ履歷書中事實ヲ隱匿シ又ハ之ヲ偽リタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十四條 試験ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本令施行ノ後五箇年間に事務練習中ト雖モ本官ノ缺アルトキハ其練習ノ滿期ヲ待スシテ本官ニ任スルコトアルヘシ

五箇年以上奉任官ヲ勤メタル者ニシテ高等試験ヲ經當選シタル者ハ事務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第二 高等試験

第十六條 高等試験ハ各官廳ノ須要ニ從ヒ時々東京ニ於テ試験委員之ヲ行フ其期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十七條 高等試験ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ  
一 丁年以上ノ男子

一 外國ニ於テ大學校又ハ之ト同等ナル學校ノ卒業證書ヲ有シ又ハ三年以上其學科ヲ修學シタル旨ヲ証明スル證書ヲ有スル者

一 文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

一 高等中學校及東京商業學校ノ卒業證書ヲ有スル者

第十八條 試験願書ハ其時々官報ヲ以テ公告スル期日前ニ左ノ證書ヲ取添之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 第十七條ニ掲グル卒業證書及修學證書ノ寫



一 身分職業年齡及兵役ニ關スル區片長ノ證書

第十九條 高等試験ノ科目ハ試験ヲ行フ年毎ニ司法官又ハ行政官ノ別ニ依リ各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ文官試験局長官之ヲ選定シ試験ノ期日三箇月前ニ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二十條 第三條第四條ノ資格ヲ具スル者ヲ除クノ外教官技術官其他特別ノ學術技藝ヲ要スルモノハ別段ノ試験法ヲ定ムルマテ各官廳ノ需求ニ從ヒ試験ヲ經スシテ之ヲ任用スルコトヲ得

第三 試補

第二十一條 試補ハ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ定限ヨリ短カラサル期限間事務ヲ練習スヘシ

第二十二條 各官廳試補ノ定員ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十三條 法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケタル者又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部文學部ノ卒業生ニシテ行政官又ハ司法官ノ試補タラシコトヲ望ム者ハ左ノ書類ヲ取添高等試験期日三十日前ニ其旨ヲ文官試験局長官ニ出願スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 學位又ハ卒業證書ノ寫

一 身分年齡

第二十四條 行政官ノ試補ハ便宜ニ從ヒ少クモ一箇年半ハ地方官廳一箇年半ハ中央官廳ニ

於テ其事務ヲ練習スヘシ

第二十五條 司法官ノ試補ハ便宜ニ從ヒ少クモ一箇年半ハ治安裁判所一箇年半ハ始審裁判所ニ於テ其事務ヲ練習スヘシ

第二十六條 試補ハ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習スルニ付テハ其主務長官ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第二十七條 主務長官ハ事務練習ノ終ニ於テ試補練習ノ功程ヲ所屬大臣ニ具狀シ其意見ヲ提出スヘシ

第二十八條 所屬大臣ハ練習期限中ト雖ヒ試補官吏ニ必要ナル品位ヲ失ヒタルモノト認ムルトキハ試補ヲ免スヘシ

第二十九條 在職ノ判任官ニシテ高等試験ヲ經當選シタル者ハ事務練習ヲ要セス缺員アル場合ニ於テハ直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第三十條 試補ノ命ヲ承ケ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習セサル者ハ試補ヲ免スヘシ

第四 普通試験

第三十一條 中央官廳ニ於テ要スル判任官ノ普通試験ハ各官廳ノ普通試験委員之ヲ行フ其期日場所ハ時々其官廳ヨリ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十二條 地方官廳ニ於テ要スル判任官ノ普通試験ハ又官廳ノ需ニ應シ府縣ノ普通試験



委員之ヲ行フ其期日場所ハ時々普通試験委員長ヨリ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十三條 試験願書ハ本人自ラ之ヲ認メ其時々公告スル期日前ニ左ノ証書ヲ取添之ヲ普通試験委員長ニ差附スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 身分職業年齢及兵役ニ關スル區戸長ノ証書

第三十四條 普通試験ノ科目ハ各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ普通試験委員之ヲ擇定シ文官試験局長官ノ認可ヲ經テ試験ノ期日一箇月前ニ官報又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五 判任官見習

第三十五條 各官廳ハ其需要ニ從ヒ官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校又ハ司法省舊法學校ノ卒業証書ヲ有シ及普通試験ニ及第シタル者ニ判任官見習ヲ命スヘシ

判任官見習ヲ命セラレタル者ハ所屬長官ノ指命スル所ニ就キ二箇年ヨリ短カラサル期限間事務ヲ練習シ判任官ノ缺員ヲ待テ本官ニ任セラルヘシ

第三十六條 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校又ハ司法省舊法學校ノ卒業証書ヲ有シ判任官見習タラシコトヲ望ム者ハ普

通試験期日三十日前ニ左ノ書類ヲ添ヘ主務官廳ニ出願スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 卒業證書ノ寫

一 身分職業年齢及兵役ニ關スル區戸長ノ證書

第三十七條 所屬長官ハ判任官見習官吏ニ必要ナル品位ヲ失ヒタル者ト認ムルトキハ判任官見習ヲ免スルコトヲ得

第三十八條 本令施行ノ前二箇年以上各官廳ニ於テ雇員トナリタル者ニシテ事務ニ熟練シタル者ト本屬長官ニ於テ認ムルトキハ試験ヲ要セス直ニ判任官ニ任スルコトヲ得

第三十九條 本令ハ明治二十一年一月ヨリ施行ス

○文官試験試補及見習規則ニ關スル細則

○附令第十八號 明治二十年七月二十三日

文官試験試補及見習規則ニ關スル細則

第一條 高等試験ハ左ノ科目中司法官ハ五科目以上行政官ハ三科目以上ヲ以テ試験ヲ行フノ定限トシ試験ノ期日及場所ト共ニ三箇月以前ニ文官試験局長官官報ヲ以テ之ヲ公告ス司法官ノ試験ハ一二三四五六七ノ科目中ニテ試験ヲ行フノ科目ヲ定メ行政官ノ試験ハ二三四ノ科目ヲ除キ自餘ノ科目中ニテ試験ヲ行フノ科目ヲ定ム

一 民法



- 二 訴訟法
- 三 刑法
- 四 治罪法
- 五 商法
- 六 憲法
- 七 行政
- 八 財政
- 九 理財
- 十 國際法

第二條 前條ノ科目中本邦ニ成典アルモノヲ除クノ外ハ受験人ハ豫メ文官試験局長官ノ許可ヲ得タル外國ノ書籍ニ依リ試験ヲ受クルコトヲ得

第三條 高等試験ハ國語及漢字交リノ文ヲ以テ之ヲ行フ特ニ外國語及外國文ヲ以テ試験ヲ受ケンコトヲ願フ者ハ豫メ文官試験局長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第三條ノ資格ヲ具スル者ヲ除クノ外敎官技術官其他特別ノ學術技藝ヲ要スル者ノ試験ヲ爲ストキハ其試験ノ科目ハ試験ノ期日及場所ト共ニ三ヶ月以前ニ文官試験局長官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第五條 高等試験ハ勅奏任官ニシテ文官試験局長官ノ許可ヲ得タル者ノ外傍聽ヲ許サス

第六條 筆記試験ハ受験人總員ヲ一室又ハ數室内ニ閉鎖シ一室毎ニ試験委員一名監視シテ之ヲ行フヘシ但受験人一名ナルトキハ試験委員二名監視スルヲ要ス

第七條 筆記試験ノ問題ハ試験局長官定ムル所ノ方法ニ依リ各受験人ヲシテ之ヲ知悉セシメ豫定ノ時間内ニ答辨書ヲ差出サシムヘシ

第八條 筆記試験ノ問題ノ數ハ各科目ニ付試験委員ノ議定シタル所ニ依ル

第九條 試験室ニ備ヘ置クヘキ必要ノ参考書類ハ法律類集官報其他公然ノ法章ニ限ル

第十條 口述試験ハ筆記試験ヲ終リタル後試験委員長ノ上席ヲ以テ試験委員總員ノ列席ニ於テ受験人一名毎ニ試問シテ即時答辨ヲ爲サシムヘシ

第十一條 口述試験ハ各受験人ニ付キ半時間以上一時間以内トス

第十二條 高等試験ハ受験人ノ果シテ學理上ノ原則ニ通曉スルヤ現行ノ法律命令ヲ解得スルヤ又法律命令ヲ實務ニ應用シ及之ヲ口述スルニ確實敏捷ナルヤ否ヲ試験スルヲ以テ目的トスヘシ

第十三條 高等試験ヲ經タル各科目ノ點數及其全體ノ效果ニ關シ合格者ヲ定ムルト試験委員ノ議定シタル平均點數ニ依ル

第十四條 當選者ハ各合格者ニ就キ試験委員長ノ具狀スル所ニ依リ各官廳ノ需要ニ應シ人員ヲ限リ内閣ニ於テ之ヲ定ム

第十五條 試験ノ合格者中ヨリ當選者ヲ查定スルハ其試験ヲ行ヒタル日ヨリ四週間以内ニ



之ヲ結了シ官報ヲ以テ其姓名ヲ公告スヘシ

第十六條 試驗委員長ハ試驗委員ノ職務ニ屬スル議決ノ數ニ入ラス若シ其議決ニ關シ試驗委員ノ説可相半スルトキハ試驗委員長ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 受験人ハ其試験ヲ受クルノ際試験手續ニ關スル規則及試験委員ノ命令ヲ遵守スヘシ犯ス者ハ監視ノ試験委員ニ於テ退室ヲ命シタルノ後之ヲ試験委員長ニ報告シ其試験ヲ拒ムコトヲ得

第十八條 高等試験ノ手續ニ關スル細目ハ文官試験局長官ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 普通試験ニ關スル細則ハ文官試験局長官ノ認可ヲ經各官廳ノ普通試験委員ノ定ムル所ニ依ル

### ○文官試験委員官制

○勅令第三十八號 明治二十年七月二十三日

#### 文官試験委員官制

第一條 文官試験委員ハ文官試験局試験委員中央普通試験委員及地方普通試験委員ヲ總稱ス

#### 高等試験

第二條 高等試験ヲ施行シ文官ノ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ラシムル爲ニ文官試験局ヲ置キ内閣總理大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ

長官

試驗委員

書記官

屬

第三條 長官一人勅任トス文官試験試補及見習規則ニ關スル一切ノ事務ヲ總理シ兼テ高等試験委員ノ長トナル

第四條 長官ハ文官試験委員ヲ監督シ試験ノ事務ニ關シテ時々報告ヲ命シ又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第五條 長官ハ帝國大學及其他勅令第三十七號ノ試験ニ關スル諸學校ノ試験規程ニ關シテ内閣總理大臣又ハ所屬長官ニ意見ヲ述フルコトヲ得

第六條 長官ハ毎年末ニ於テ試験出願者當選者試補見習並文官任用ノ人員身分年齡族籍等ヲ統計細別シ其意見ヲ具シテ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第七條 長官ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經文官試験試補及見習ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

第八條 文官試験局ノ試験委員ハ内閣總理大臣各官廳ノ勅奏任官及官立學校ノ教官ヨリ選テ之ニ充ツ

第九條 文官試験局ノ試験委員ハ長官ノ監督ニ屬シ其徵召ニ應シ文官試験試補及見習規則及之ニ關スル諸細則ニ依リ高等試験ヲ施行スルコトヲ掌ル



第十條 書記官ハ二人奏任トス長官ノ指揮監督ヲ承テ文書ヲ整理ス

第十一條 屬ハ判任トス上官ノ命ヲ承テ書記計算簿記ノ事ヲ掌ル

第十二條 普通試験ヲ施行シ及之ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ラシムル爲ニ中央官廳ニ於テハ官廳毎ニ普通試験委員ヲ置キ府縣ニ於テハ府縣毎ニ普通試験委員ヲ置ク

第十三條 中央官廳ノ普通試験委員ハ局長參事官書記官又ハ其他ノ高等官ヨリ選テ各官廳ノ長官之ヲ命スヘシ

第十四條 地方官廳ノ普通試験委員ハ各官廳ノ官吏及官立府縣立學校ノ教官ヨリ選テ各官廳ノ長官之ヲ命シ又ハ囑托スヘシ

第十五條 普通試験ヲ施行スル爲ニ各官廳ノ長官ハ委員中ヨリ選テ普通試験委員長ヲ命スヘシ

第十六條 各官廳ノ長官ニ於テ普通試験委員長委員ヲ命シ又ハ囑托シタルトキハ其官職姓名ヲ文官試験局長官ニ通知スヘシ

第十七條 普通試験委員長ハ文官試験試補及見習規則ニ依リ所管ノ普通試験ヲ施行シ及之ニ關スル一切ノ事務ヲ掌リ普通試験委員ヲ監督ス

第十八條 普通試験委員長ハ官立府縣立諸學校ノ試験規程ニ關シテ意見アルトキハ之ヲ文官試験局長官ニ具申ス

第十九條 普通試験委員長ハ毎年未ニ於テ試験出願者當選者事務練習人並文官任用ノ人員

身分年齡族籍等ヲ統計細別シ其意見ヲ具シテ文官試験局長官ニ報告スヘシ

第二十條 普通試験委員ハ普通試験委員長ノ徵召ニ應シ文官試験試補及見習規則及之ニ關スル諸細則ニ依リ普通試験ヲ施行シ時々其結末ヲ普通試験委員長ニ報告スルコトヲ掌ル

第二十一條 普通試験ノ事務ニ關シ書記計算簿記ヲ掌ラシムル爲ニ各官廳ニ奉職スル判任官ヲ以テ書記ニ充ツヘシ

○試補及見習ノ待遇並ニ任用ノ件  
○勅令第五十七號 明治二十年十一月五日

本年七月勅令第三十七號文官試験試補及見習規則ニ據リ試補及見習ヲ命セラレタル者ノ待遇ハ試補ヲ奏任トシ見習ヲ判任トス

同則ニ據リ試補及見習ヲ本官ニ任用スルニハ試補ハ奏任官四等以下トシ見習ハ判任官五等以下トス

○判任官高等試験ヲ受クルコトヲ得ルノ件  
○勅令第六十四號 明治二十年十二月廿五日

本年七月勅令第三十七號文官試験試補及見習規則施行ノ後五箇年間ハ五ヶ年以上官務ニ従事シ判任官五等以上ニ叙セラレタル者ハ同則第十七條第五項ニ準シ高等試験ヲ受クルコトヲ得其當選シタル者ノ本官ニ任スルハ同則第二十九條ニ據ル

○高等試験及實務練習ヲ要セス司法官ニ任スルヲ得ヘキ者ノ



資格ヲ定ム

○閣令第十九號 明治二十年七月廿三日

四ヶ年以上裁判官檢察官ノ職ヲ奉シ他ニ轉官シ又ハ四ヶ年以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者四ヶ年以上司法省ノ民事局長刑事局長又ハ參事官ノ職ヲ奉シタル者及代官人試験ニ及第シ五ヶ年以上代官人タル者ハ當分ノ内高等試験及實務練習ヲ要セスシテ司法官ニ任スルコトヲ得

○在職判任官本官ニ任用年限

○閣令第二十三號 明治廿年十一月七日

本年<sup>七</sup>勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第廿九條在職判任官ニシテ直ニ本官ニ任スルヲ得ル者ハ在職三年ニ滿ル者ニ限ル若三年ニ滿サル者ハ先試補ニ任用シ前後通算シテ三年ニ滿ルヲ待テ本官ニ任スルモノトス

○司法省舊法學校正則部卒業生試験規則適用ノ件

○閣令第二十五號 明治二十年十二月廿一日

明治二十年<sup>七</sup>勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第一條第三條及第二十三條中舊東京大學法學部卒業生ニ關スル規定ハ司法省舊法學校正則部卒業生ニモ適用スルモノトス

○技術官任用例規

○閣令第二十八號 明治二十年十二月二十八日

本年<sup>七</sup>勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第二十條ニ據リ別段ノ試験法ヲ定ムルマテハ技術官及特別ノ學術技藝ヲ要スル者ヲ任用スルニハ左ノ例規ニ依ルヘシ

一 奏任官ハ本則第三條ニ準シ各種ノ學術技藝ニ就キ一定ノ資格アル者又ハ第十七條ニ準シ其經歷ニ依リ相當ノ資格アリト認ムヘキ者ヲ選ヒ本人ノ履歷學術技藝ニ關スル證書ノ寫身分年齡等豫メ文官試験局長官ノ銓衡ヲ經テ後各省大臣ヨリ奏聞ノ手續ニ及フヘシ

一 判任官ハ本則第四條ニ準シ各種ノ學術技藝ヲ修メ一定ノ資格アル者ヲ命シ其他ノ者ハ經歷ニ依リ相當ノ資格アリト認ムヘキ者ヲ選ヒ本人ノ履歷學術技藝ニ關スル證書ノ寫身分年齡等豫メ普通試験委員長ノ調査ヲ經テ之ヲ命スヘシ

本年<sup>七</sup>勅令第三十七號文官試験試補及見習規則其他之ニ關スル法令中試験ニ關スル條項ノ外通則試補判任官見習ニ就キ規定シタルモノハ技術官及特別ノ學術技藝ヲ要スルモノニモ適用スルモノトス

○郡區長ハ内務大臣指定ノ科目ニ依リ試験シ又高等試験

ヲ經サレハ他ノ高等官ニ轉スルヲ得サル件

○閣令第二十號 明治二十年七月廿三日

地方現今ノ情況ニ依リ郡區長ノ試験ハ學術ニ偏セス實務ヲ旨トシ專ラ其地ノ狀勢民情及利害ニ通曉スル者ヲ選任スヘキ必要アルヲ以テ郡區長ノ試験科目ハ當分ノ内地方ノ實況ヲ斟酌



酌シテ内務大臣ノ指定スル所ニ依ル

但郡區長ハ高等試験ヲ經タル者ニ非レハ他ノ高等官ニ轉スルコトヲ得ス

○郡區長試験條規

○内務省令第五號 明治二十年十二月廿九日

郡區長ノ試験ニ關シ左ノ條規ヲ定ム

第一條 郡區長ノ試験ハ左ノ科目ヲ以テ内務省ニ於テ之ヲ行フ

一 就職スヘキ地方ノ風土慣例及物産

一 郡區長職務ニ必要ナル法令

一 郡區長職務ニ關スル公文ノ立案

第二條 郡區長ノ試験ヲ受クルハ滿三十年以上ノ者タルヘシ但該地方ニ於テ五箇年以上奏

任官又ハ郡區長ノ職ヲ奉シタル者ハ此限ニアラス

第三條 試験出願者ハ願書ニ就職スヘキ地名ヲ記入シ履歷書ヲ取添ヘ北海道廳又ハ府縣廳

ヲ經テ試験委員長ニ差出スヘシ

第四條 試験委員ハ内務大臣内務省ノ高等官若クハ他官廳ノ高等官ヨリ選テ之ヲ命シ又ハ

囑託シ内務省總務局長ヲ以テ委員長トス

第五條 試験委員ハ必要アル場合ニ於テハ問題ヲ選定シテ北海道廳長官府縣知事ニ送付シ

該地方高等官三名以上列席ニ於テ其應答ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條 試験ノ手續ニ關スル細目ハ試験委員長ノ定ムル所ニ依ル

○官吏辭職後再ヒ就職スル者ノ制限

○閣令第九號 明治二十年四月十九日

各官廳

各官廳ニ奉仕スル官吏ニシテ辭職シタル者ハ辭職後滿一年ヲ經過シタル後ニ非サレハ再ヒ

就職スルヲ許サス且官等俸給共ニ前官ニ超越スルヲ得ス

○巡查看守再勤ノ件

○神奈川縣令 明治二十年四月廿三日

本月十九日閣令第九號ヲ以テ官吏辭職シタル者ハ滿一年ヲ經過シタル後ニ非サレハ再ヒ就職スルヲ許サス云々御達相成候處巡查看守ノ如キ奉職誓約期限アルモノト雖モ辭職後滿一年ヲ經サレハ就職不相成義ニ可有之哉巡查看守ハ從來再勤ノ者多キニ居ルモ尙志願者少ク爲メニ其欠員ヲ補フニ汲々タル現況ニ有之然ルニ該閣令ニ依ルモノトスルハ益々志願者之ヲ啗タニ欠員ニ差支ヘアルノミナラス適當ノ人物ヲ得難ク義ト被考候右相伺候

内務省指令 明治二十年五月十四日

書面伺之趣巡查看守ハ閣令第九號ニ依ルノ限リニアラス

○察警官及巡查採用方ノ件

○長野縣令 明治二十年十一月一日

第一條 本年勅令第三十七號第三十八條ニ依ルトキハ本令施行ノ前二ヶ年以上各官廳ニ於



テ雇員トナリタルモノニシテ事務ニ熟練シタル者ト本屬長官ニ於テ認めルトキハ試験ヲ要セス直ニ判任官ニ任スルコトヲ得ル義ニ有之候處警察官吏中巡查ノ如キハ無論雇員以上ノ資格ニシテ執ル處ノ事務モ亦警察官ヲ補佐スルモノナレハ本職ニ従事スルニケ年ヲ經タルモノハ雇員同様判任官(警部警部補)ニ採用不苦哉

第二條 前條勅令明文申單ニニケ年以上云々ト有之候處一旦雇員タリシモノニシテ退職後數年間ヲ經タリト雖モ事務熟練ノ者ト見込トキハ試験ヲ要セス採用不苦哉又雇員タリシ者中途職ヲ停メ一期ニケ年ニ及ハサルモ前後ノ就職併セテニケ年ニ至ル者ハ前同様資格アルモノトシ可然哉

第三條 第一條巡查ヨリ警部補已上ニ採用不苦者トセハ例ヘハ巡查タルコト一年雇員タルコト一年又ハ警部警部補タルコト一年雇員タルコト一年併テニケ年ニ滿ツルモノハ該資格アルモノト認め可然哉

第四條 明治十九年内閣達第百三十五號ニ巡查奉職滿九年已上十二年已下ハ月俸十二圓滿十二年已上ハ月俸十五圓ヲ給スルコトヲ得ト有之候處最初巡查ヨリ警部補ニ昇進シ再ヒ巡查ト相成タルモノ又ハ他ノ判任官例ヘハ檢事補又ハ看守長タリシ者爾後巡查ヲ奉職シ前後併セテ九ケ年若クハ十二ケ年ノ勤績ニ至リタルモノモ矢張前同様ノ資格アルモノト認め可然哉

内務省指令 明治二十年十一月廿九日

### 第一條 伺之通

第二條 三十八條ヲ適用スヘキモノニアラス

第三條 現ニ就職スルモノハ伺ノ通

第四條 他ノ職務ヲ奉シタル年月ハ算入スヘキモノニアラス

### ○官吏服務紀律

○勅令第三十九號 明治二十年七月廿九日

#### 官吏服務紀律

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス  
官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條 官吏ハ已ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ洩洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退クニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得



第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ル、コトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接ト問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一 官廳ノ工事ヲ受負フ者

一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一 官廳ノ用品ヲ調達スル者

一 官廳ノ諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハヌ所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接ト問ハヌ商業

ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立道鐵會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキニ事情ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隠蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レシム

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○警察巡閱規則

○内務省訓令第三十六號 明治二十年六月十一日

警察巡閱規則

警視廳東京府  
廳縣ヲ除ク



- 第一條 本則ハ警察各部ニ於ケル紀律ノ張弛服務ノ勤惰處務ノ整否其他法律命令實施ノ狀況ヲ觀察シ警察ノ實効ヲ收メシムルカ爲メニ設クルモノトス
- 第二條 巡閱ハ毎年四月五月ノ間ニ於テ東京ニ在テハ警察本署長其他ノ府縣ニ在テハ警部長ヲ以テ之ヲ施行セシムヘシ
- 第三條 巡閱官ハ左ノ項目ニ就キ其方法ノ如何ヲ查閱スヘキモノトス
  - 一 執行事務及其報告ノ方法
  - 二 執行官吏ノ配置及警邏
  - 三 執行事務ノ監督及警邏ノ監督
  - 四 非常召集ノ方法
  - 五 司法警察即チ被告人ノ搜查逮捕訊問及檢察官ヘ送付ノ手續等
  - 六 留置人取扱及遞傳護送
  - 七 諸願伺書等ニ關スル諸文書ノ取扱
  - 八 違警罪及諸規則違犯者處分
  - 九 戶口調査及監視人ノ取扱
  - 十 文書統計記録ノ取扱
  - 十一 服裝姿勢及禮式
  - 十二 教習及訓授

- 十三 會計經理取被服給與
  - 十四 警察署分署派出所及留置場ノ構造裝置
  - 十五 火災消防及器具ノ使用
  - 十六 警察上緊要ノ器具
  - 十七 集會ニ關スル取締
  - 十八 衛生警察殊ニ傳染病撲滅ノ方法及衛生ニ關スル諸般ノ取締
  - 十九 交通取締即チ道路及舟車ノ狀況等
  - 二十 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締殊ニ料理店貸座敷宿屋古物商質商及危險物賣買商等
  - 第四條 巡閱官ハ警察官吏ノ風儀動作其他人民ニ對スル關係若クハ過度ナル浪費ヲナスヤヲ觀察スルモノトス
  - 第五條 警察處務ニ關スル便否及ヒ警察官ノ處分ニ關スル意見ヲ巡閱官ニ申告スルモノアルトキハ之ヲ受査閱スヘシ
  - 第六條 巡閱官巡閱ヲ終レハ其狀況ヲ盡シ意見ヲ付シ巡閱中ニ係ル日誌ヲ添ヘ視警總監又ハ知事ニ復命シ警視總監又ハ知事ハ其概況ヲ內務大臣ニ報告スヘシ
- 澁入紙製造取締規則及製造届出方
- 勅令第三十六號 明治二十二年七月廿三日



澆入紙製造取締規則

第一條 文字畫紋ヲ澆入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳東京府ハニ届出ヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條 紙幣兌換銀行券公債証券書大藏省証券其他政府發行ノ証券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ澆入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

○大藏省令第十二號 明治二十年八月廿六日

文字畫紋ヲ澆入レタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品二葉ヲ添ヘ左ノ雛形ニ據リ届書二通ヲ管轄廳東京府ハ警視廳ニ差出スヘシ管轄廳又ハ警視廳ハ一通ヲ留メ置キ一通ヲ當省ヘ遞送スルモノトス

雛形(用紙半紙)

澆入紙製造届

一何々澆入紙

右製造仕候間現品相添此段御届仕候也

年月日

貫籍

何某印

廳府縣長官宛

○巡查看守給助例中年金支給方

○内務省訓令第二十三號 明治二十年四月七日

(巡查看守給助例ハ前編附録甲編五十一丁ニ在リ)

巡查看守給助例中年金ハ左ノ各項ニ據リ支給スヘシ

一年金ハ毎年三月及九月ニ於テ其月ヨリ前六ヶ月六箇月ニ滿タサルモノハ現月數ヲ以テ計算ス分ヲ支給スヘシ

一年金ハ退職又ハ死亡又ハ傷痍ノ翌月ヨリ支給スヘシ

一年金ヲ受ケタル者本例第八條第一項及第九條ニ該當スルトキハ日割ヲ以テ支給スヘシ

一年金ヲ受ケタルモノ死亡又ハ本例第五條第一項後段ニ該當スルトキハ其月分全額ヲ支給スヘシ

○警察及監獄備員職務上死傷セシ者吊祭扶助療治料

○内務省訓令第四十二號 明治廿年九月七日

廳府縣集治監  
假留監

警察及監獄備員ニシテ職務上死傷セシモノ吊祭扶助療治料ハ十五年第六十七號公達ニ照準支給スヘシ(第六十七號公達ハ前編附録甲編五十一丁ニ在リ)

但警察備員ハ警察費監獄備員ハ監獄費ヨリ支辨スルモノトス

○虎列刺病豫防消毒心得書

○内務省頒布 明治廿年八月十五日

前編附録甲編(百卅五丁)ニ登載セシ虎列刺病豫防消毒心得書左ノ通各章ヲ改正増補シ新タ



ニ數章ヲ加ヘ檢疫施行ノ方法ヲ指示セラル此方法ニ基ツキ虎列刺病豫防撲滅ヲ計畫スル事

虎列刺病豫防消毒心得書

傳染病ヲ撲滅スルニハ機會時期ヲ必要トス先年來我邦ニ於ケル虎列刺病ノ流行猖獗ヲ極メタル事實ニ就テ觀察スルモ其初發即チ僅々二三ノ患者ニ過キサルノ時ニ於テ迅速之カ撲滅ニ着手シ且其消毒法ノ綿密周到セルモノハ常ニ其結果ヲ呈シ又未タ該病發生ヲ見サル所ニ在テハ清潔其他ノ豫防法ヲ施行シ遂ニ其傳染ヲ免レシハ皆機會時期ヲ失ハサルニ由ル然レトモ其初發ニ於テ消毒豫防ヲ等閑ニシ毒焰熾盛ノ後ニ及テ假令非常ノ力ヲ盡スモ兇勢猛烈復タ制スヘカヲサルハ實驗ニ徴シテ明カナリ故ニ虎列刺病未發ノ時ニ於テハ衛生清潔ヲ力メテ常ニ之カ豫防ヲ爲シ若シ一朝該病發生スルヲ認メハ其未タ流傳セサルニ先タチ急ニ主務吏員ニ於テ撲滅ノ方法ヲ施行スルハ勿論一層衛生清潔ヲ謀リ苟モ該病誘發ノ虞アルモノヲ除却シ以テ虎列刺病ノ侵襲ヲ防クコト殊ニ必要ナリトス

第一章 豫防準備

一般傳染病ヲ豫防スルハ人民各自ニ於テ常ニ衛生清潔ヲ行ハシムルハ勿論殊ニ例年炎暑ニ向ソトスルノ前及其交通アル地方ニ虎列刺患者アル時ニ方テハ尙更之ヲ勸奨シ各家互ニ注意セシメ苟モ該病誘發ノ媒介ト爲ルモノヲ却テ自衛ノ念ヲ晚起セシメ又互ニ注意シテ隱匿ノ弊ヲ去レハ其豫防上ニ功績ヲ收メ得ヘキハ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ平素此念ヲ保タシメハ一旦發病者アルモ檢疫ノ施設便利ニシテ災ヲ一小點ニ息滅スルコトヲ得ヘシテ流行

時ニ至リテハ無病地ヨリ有病地ニ出稼ノ者其病毒ノ傳染ヲ避ケンカ爲メ毒ヲ懐テ歸郷スルヨリ病毒ヲ輸入スルモノ間々之アリ依テ是等ニ注意スルコト殊ニ肝要ナリトス

第一條 區戸長ハ各町村内ニ便宜組合ヲ編成シ常ニ清潔掃除及虎列刺病豫防消毒ノ實施ニ就キ約束ヲ設ケ之ヲ履行セシムルヲ要ス

第二條 區戸長ハ所轄地外ノ遠近ニ拘ハラヌ所轄地ト交通アル場所ニ虎列刺患者アルカ又ハ該病流行ノ兆アルトキハ石炭酸水稀硫酸昇汞水等ノ如キ消毒藥及其他檢疫ニ屬スル要具ヲ備置キ其交通上ヨリ病毒ヲ侵入セシメサルニ注意シ且組内ヨリ該病流行スル地ニ出稼人ノ有無及組内互ニ該患者ノ有無ニ注意セシムルヲ要ス若シ該病アル地ニ往來シタル者下痢ヲ爲シタル場合ニ於テハ其消毒等虎列刺病ニ同様ナル處置ヲ行フヘシ  
此場合ニ於テハ組内ヨリシテ相當ノ方法ヲ設ケシメ大糞池等消毒ニ困難ナル厠間ニ上ラシメス成ルヘク小糞池ヲ設ケシメ且吐瀉物ヲ大糞池等へ投棄セシメサルヲ可トス

第三條 前條ノ場合ニ於テハ區戸長ハ各組合約束ノ履行ヲ監査シ該病豫防消毒ノ要領ヲ各組合ニ説示スルヲ要ス

第二章 撲滅法

虎列刺患者發シタルトキ其消毒撲滅法ヲ實施スルハ主トシテ巡查町村吏擔當スルモノナレトモ此場合ニ於テハ必ズ經驗ニ富ミタル衛生課員警部若クハ郡書記之ヲ監督セサルヘカラス其實務者ノニニ放任シテ其監督ヲ怠ル時ハ爲ス所其方法ヲ得ス勞多クシテ効寡ナ



シ況ヤ豫防消毒不充分ナルハ其害一所ニ止マラス忽チ病毒ヲ散亂シ其災害ノ及フ所測ルヘカラサルニ於テオヤ而シテ該病豫防撲滅ノ實施ヲ周密活潑ニシテ其効績ヲ確カムルニハ時々高等官ノ巡視ヲ最緊要ナリトス

第四條 虎列拉患者發生シタルトキハ直ニ豫防消毒法ヲ實施シ置キ傍ヲ其患者ハ傳染シタルモノナルヤ特發シタルモノナルヤヲ探知スル爲メ左ノ事項ヲ問フコトヲ要ス

一 發生ノ時日  
二 發病前當人及家内ノ者他ノ該病アル所へ行キシコトアリヤ且其所ニ於テ飲食セシコトアリヤ

三 該病アル所ヨリ來リシ物品ナキヤ  
四 近頃該病アル地ヨリ客來若クハ職人婢僕ノ備入ヲ爲セシコトナキヤ

五 曾テ其家ニ該病アリシコトナキヤ或ハ近頃下痢ヲ患ヒシ者ナキヤ  
六 曾テ近隣ニ該病アリシヤ又ハ現在該病アリヤ

以上ヲ質問シ其傳染シタルモノナルカ又ハ特發シタルモノナルカヲ明カニスヘシテ而シテ傳染ノ來歴正シク知レサルモ決シテ豫防消毒ニ怠ルヘカラス當時傳染ノ証跡詳ナラサルモ後日ニ至リテ之ヲ發見スルコトアリ又終ニ傳染ノ述詳ナラサルモ之ヨリ他ヘ傳染スルコトアルハ往々見ル所ナレハナリ

第五條 傳染ナルト特發ナルトニ拘ラス其最初ニ在テハ速ニ嚴重ノ手段ヲ施シ患者ハ第三

章ニ依リ取扱ヒ第七章ニ依リ充分ノ消毒法ヲ行ヒ一家限リニ之ヲ撲滅スルヲカムヘシ此場合ニ於テハ醫員ヲシテ該家及近隣ヲ巡診セシメ攝生法ヲ諭示シ殊ニ飲食ヲ戒慎セシムル等諸般ノ注意ヲ怠ルヘカラス

第六條 前條ノ場合ヨリ愈々患者ヲ發生シ該病傳播ノ兆アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ設ケテ必要ノ場所ヘ派出シ消毒ノ實施ヲ監督セシメ且豫防上ニ於テ各所互ニ脈絡ヲ通セシムヘシ又祭禮等ノ如キ人民ノ群集飲食スル事項ニ注意シ醫師ヲシテ吐瀉ノ患者ヲ届出サシムヘシ但本文ノ場合ニ於テハ第五條ノ方法ヲ充分施行スルハ勿論一局部ノ遮斷ヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ第六章ニ從テ之ヲ施行スヘシ

第七條 隣府縣及交通アル府縣ニ虎列拉病アリテ自府縣ヘ患者及死者ヲ輸入シタルトキ又ハ隣府縣後發病シタル者アルトキニ於テハ第五條第六條ノ方法ニ依リ充分消毒撲滅ヲ力ムヘシ

第八條 船舶ノ交通アル府縣ニ該病流行スルノ通知ニ接スルトキハ地方長官ハ直ニ要港ヘ主務吏員ヲ派出シ傳染病豫防規則第十三條ニ據リ充分注意セシメ若シ患者アルヲ探知シタルトキハ第五條ニ依リ速ニ處置スヘシ又下宿、旅人宿、殊ニ水賃宿安宿等ニハ日々主務吏員ヲ派遣シ行旅人ノ吐瀉病ニ罹ル者ナキヤ否ニ注意セシムヘシ

第九條 隣府縣及直接交通アル府縣ニ該病流行スルモ未タ病毒ヲ流傳セサル場合ニ於テハ地方長官ハ該病アル地方ヨリ通路ニ當ル要衝ノ地又ハ停車場ニ主務吏員ヲ派出シ行旅人



ニ注意セシメ該患者死者若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ應當ノ處置ヲ爲サシムヘシ但一般通行人ヲ引留シ石炭酸水ヲ撒注シ又ハ診察ヲ爲スカ如キ事ヲ要セス

第十條 自府縣ニ於テ該病流行スルトキハ速ニ隣府縣及交通アル府縣へ電報シ若シ流行地ト直接スル土地其管轄廳ニ遠隔シタルトキハ最寄郡區役所又ハ警察署ニ併セ通報スルヲ要ス

第十一條 寄宿舍、旅人宿、下宿屋、人足部屋、貧院、囚獄等ノ如キ多人數群居スル家ニ患者發生シタルトキハ先ツ同室者ノ外出散亂ヲ禁シ直ニ患者ヲ隔離シ其室ハ勿論必要ト認ムル場所ニハ消毒ヲ充分施行シ其同室者ハ一々入浴セシメ同室者ノ衣類夜具等病源ニ汚染シタルモノ若クハ其疑アルモノハ第七章ニ依リ消毒スヘシ且患者ト隔離シタル日ヨリ起算シ五日間同所ニ滞留セシメ他ト交通ヲ絶チ同症ニ罹ルナキヤ否ニ注意スヘシ若シ其場所狹隘ナルカ又ハ都合ニ依リテハ他ノ一家ヲ以テ之ニ充テ其家ニ分居セシムルカ若クハ悉ク其家ニ移シ居ラシムルモ妨ナシ

又學校、寺院、劇場等ノ如キ多人數群集スル場所ニ該患者アリタルトキハ患者ハ直ニ隔離シ病源汚染ノ虞アル者ハ一時之ヲ止メ相當ノ消毒ヲ爲シ宿所氏名并其行先ヲ聞キ其旨ヲ行先ノ檢疫委員ニ通知スヘシ

第十二條 日本形諸船舶中ニ該患者死者アリタルトキハ其吐瀉物ヲ何ノ處ニ投棄シタルカヲ查明シタル上患者ハ陸上ニ於テ避病ニ適應ノ場所ニ送り死者ハ消毒ノ上火葬ノ手續ヲ

爲スヘシ又其船舶ハ相當ノ消毒ヲ施シ且旗號ヲ立テ人家及他ノ船舶ニ遠リタル所ニ碇泊セシメ又飲食起臥ヲ共ニシタル同船者ハ消毒ノ上其船中又ハ隔離所ニ五日間滞留セシメ同症ニ罹ルナキヤ否ニ注意スヘシ

瀕車中ニ該患者死者アリタルトキハ前項ニ準シ其取扱ヲ爲シ病源汚染ノ虞アル同室者ハ消毒ノ上其宿所氏名並其行先ヲ聞キ其旨ヲ行先ノ檢疫委員ニ通知スヘシ

第十三條 吐瀉物ヲ河中ニ投棄シタルコトヲ認知シタルトキハ其下流ニ於テハ當分其水ヲ飲料洗濯用トスルヲ止メ若シ己ムコトヲ得サレハ煮沸シテ用ヒシムヘシ

第三章 患者取扱

虎列拉病毒ヲ蔓延セシムルハ多クハ該病流行時ニ方リ前驅下痢若クハ吐瀉ヲ發スル者アルモ醫師ノ診察ヲ受ケサルヲ以テ虎列拉病タルヲ知ラス尋常ノ下痢若クハ吐瀉ト心得隨意ニ他人ト交通シ又僕婢雇人ニシテ下痢若クハ吐瀉スル者アルトキハ該主人ニ於テ虎列拉病ナランカヲ懸念シ請人ニ引渡シ又ハ實家ニ送ル等ヨリ兎角病毒ヲ散蔓セシムルコト比々之アリ且虎列拉病ト判明スルモ患者取扱ノ不注意ヨリシテ亦傳播ヲ促スコト尠カラサルヲ以テ左ノ各條ヲ施行セシムルコト緊要ナリ

第十四條 虎列拉患者ハ勿論該病流行時ニ當リテハ吐瀉若クハ下痢アル患者ノ吐瀉物汚染物等ハ之ヲ一所ニ集メ置キ散亂セシメス且醫師若クハ掛リ官ノ出張スル迄該患者ヲ他ニ移サシメス又家族親族タリトモ看病者ノ外猥リニ入室ニ立入ラシメサルヲ要ス



第十五條 虎列拉患者アルトキ左ノ各項ニ該當セサル者ハ患者ヲシテ避病院ニ移シ治療ヲ受ケシムルヲ要ス但其該當スル者モ掛官ニ於テ特ニ病毒傳播ノ虞アリト認ムル場合ニ於テハ避病院ニ入ラシムルヲ可トス

一 家族ノ居間及臺所ヲ通行セシテ至リ得ヘキ病室ヲ有スル者

二 特別ノ看病人アル者

三 特別ノ家具什器ヲ有スル者

四 充分ノ消毒法ヲ實施シ得ル者

五 主治醫アル者

第十六條 避病院ニ送ルヘキ患者ハ釣臺又ハ戸板等ニ布團ヲ敷キ風通シ善キ日除ヲ備ヘテ之ニ載セ吐瀉物ヲ受クルモノ及氷若クハ冷水ヲ備フヘシ且此際付添看病ヲナサントスル者アラハ之ヲ許スモ妨ナシ

第十七條 第十五條ニ依リ自宅治療セシムルトキハ豫防消毒ヲ一層周密ニシ衛生官吏警察官又ハ檢疫委員ノ設アルトキハ該委員時々之ヲ見廻ルヲ要ス

第十八條 患者アリシ家ノ家族及看病人等ノ如キ患者同家ノ者若クハ該家ニ交通シタル者ニシテ下痢若クハ吐瀉シタルトキハ其吐瀉物及汚染物ニハ虎列拉患者ノモノト同様ノ消毒ヲ爲スヲ要ス

第十九條 吐瀉物及汚染物ヲ取扱ヒ若クハ患者ニ觸レタル者ハ直ニ他ノ物品ニ觸ルヘカラ

ス豫メ鉢又ハ桶ノ類ニ弱石炭酸水ヲ入レ置キ之ニテ手ヲ洗フヘシ又患者ヲ取扱フ際自己ノ衣服ヲ患者ノ吐瀉物等ニ觸レサル様注意スルヲ要ス

第二十條 吐瀉物等ヲ拭フニハ薦葉シテ妨ナキモノヲ用フヘシ而シテ其使用シタルモノハ吐瀉物受器ニ入テ稀硫酸ヲ注クヘシ

第二十一條 該患者アリタルトキ病毒汚染ノ疑ナク且患者ニ必用ナラサル物品ハ總テ他室ニ移サシメ消毒施行ノ際無益ノ手數ヲ煩サ、ルヲ要ス

第二十二條 該患者必用ノ器具藥用品食用品ハ其室内ニ於テ使用シ他ニ出サシメサルヲ要ス

第二十三條 患者ノ室内ニアリタル飲食物ニシテ吐瀉物ニ汚染セシモノハ勿論其疑アルモノモ吐瀉物同様ニ處置スルヲ要ス且患者ノ食膳ニ上リタル殘餘食物モ亦同様處置スルヲ要ス

第二十四條 吐瀉物受器ハ二通り備ヘ置豫メ稀硫酸ヲ容レ甲器ノ吐瀉物滿ツルニ先チ乙器ト交代シ室内ニ置クヘシ但此受器ハ金屬製ヲ用ユヘカラヌ

其吐瀉物ハ別ニ室外ニ備ヘアル吐瀉物溜桶桶明キ樽等ニシテ物ニ移シ尙稀硫酸ヲ注キテ燒却ノ手續ヲ爲スヘシ但吐瀉物溜ニハ必ス蓋ヲ爲シ置キ蚊蠅ヲ防クヘシ且下水井戸ノ近傍ニ置クヘカラヌ

第四章 檢疫委員

虎列拉病ノ豫防撲滅ヲ圖ルニハ專務者ヲ置キ之ニ從事セシムルニアラサレハ到底其目的ヲ



達シ得ヘカラス是レ檢疫委員ノ設置ヲ必要トスル所以ナリ

第廿五條 檢疫委員ハ第六條該病傳播ノ兆アル場合ハ勿論隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行シ傳播ノ恐アル場合ニ於テ之ヲ設クヘシ

第廿六條 檢疫委員ヲシテ取扱ハレムヘキ重ナル事項左ノ如シ

- 一 該病ノ傳染ナルヲ否ヲ探知スルコト
- 一 傳染ト特發トヲ問ハス第五條ニ依リ速ニ充分ノ處置ヲ爲スコト
- 一 消毒藥及其要具ヲ準備スルコト
- 一 消毒藥ノ種類配合用量ニ注意スルコト
- 一 消毒法ヲ實地ニ就キ監督スルコト
- 一 必要ノ場合ニ於テ毎病家ニ就キテ交通遮斷ノ取締ハ勿論一局部限リ遮斷シ得ヘキヤ否ノ鑑別及其實施ヲ監督スルコト
- 一 遮斷地内救助ニ注意スルコト
- 一 遮斷地内清潔法ヲ監督スルコト
- 一 避病院ヲ巡視スルコト
- 一 醫員巡診法ヲ經畫スルコト
- 一 患者ヲ隔離シ又ハ同室者ヲ患者ヨリ隔離スルコト
- 一 攝生法、飲料水、飲食物及清潔法ノ豫防上要用ナル件ヲ諭示スルコト

一 特ニ寄宿舍、旅人宿、下宿屋、人足部屋、貧院、囚獄等ニ注意スルコト

第廿七條 檢疫委員及其他豫防ニ従事スル者ハ成ルヘク特別ノ消毒衣ヲ着用シ病毒汚染ノ感アル毎ニ之ヲ脱シ充分消毒法ヲ行フヘシ

第五章 避病院附離隔所

避病院ハ患者ヲ治療スルト病毒ヲ他ニ散蔓セシメス一所ニ離隔シテ豫防スルトノ二ツノ目的ヲ達スルカ爲メニ設クルモノナリ然ルニ動モスレハ避病院ヲ嫌忌スルノ感ヲ慝クモノ間々之アルカ故ニ患者取扱方ニハ殊ニ親切ナルヲ要ス

離隔所ハ患者ト同家ニアリタル者又ハ病毒ニ傳染シタルモノ疑アル者ヲ離隔シ潜伏ノ有無ヲ試ルノ所トス

第廿八條 人口稠密ノ市街ニ於テハ何時ニテモ開院シ得ヘキ避病院ヲ成ルヘク市外ニ準備シ置クヲ要ス且村落ニ於テモ第五條第六條ノ如キ場合ニハ新ニ避病院ヲ設ケ又ハ相當ノ家屋、寺院等ヲ避病院トシ若クハ離隔所トスヘシ其距離ハ道路ノ便ヲ計リ餘リ僻遠ニ過サルヲ可トス又偏僻ノ村落ニ在テ一家ニ數名ノ患者ヲ發シ又ハ連檐ニ患者發生シタル片ハ土地家屋ノ狀況ニ依リ健康者ヲ他ニ離隔スルノ便方アルヘシ

第廿九條 入院患者ノ家族等ニシテ面會ヲ申出テ若クハ付添看護ヲ乞フ者アルトキハ醫員其他ニテ其心得方ヲ諭示シ之ヲ許スヘシ

第三十條 市街ニ屬スル避病院掛員ハ常直醫、調藥生、世話掛各一員以上ヲ置キ且看護者、



小使、排泄物取扱人ヲ分科シテ置カサルヘカラス又賄人ハ一切病室ニ立入ラシムヘカラス村落ニ於テハ之ニ準レ簡易ニスルモ妨ナシ但掛員、看護者等ノ身体疲勞シタル者ハ休憩セシムルヲ要ス

第三十一條 私ニ避病舎ヲ設ケ該患者ヲ入室治療セシムルハ妨ナシト雖モ其場所及消毒其他ノ方法ハ府縣長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 交通遮斷

交通遮斷トハ醫師、檢疫委員、看護人、神佛敎師等職務上必要ノ者ノ外交通ヲ許サ、ルヲ云フ抑虎列拉病毒ハ患者僅少ナル時期ニ於テ撲滅セム一旦散蔓セシムルトキハ之ヲ防遏スルコト極メテ難シ故ニ其初發ニ在テ之ヲ一人ニ於テ撲滅シ若シ一人ニ於テ撲滅シ能ハサルト雖ハ一家ニ於テ撲滅シ一家尙能ハサルトキハ一村一部落ニ於テ撲滅スルヲ力ムヘシ是レ交通遮斷ノ止ムヘカラス所以ナリ然ルニ此方法ハ該病發生ノ最初ニ於テ之ヲ實施シ病毒ヲ撲滅スルニ最モ効アリト雖モ該患者各所ニ散發シ若クハ其流行數町村ニ亘リ已ニ蔓延セル時ニ及テハ局部遮斷ヲ施行スルハ極メテ困難ナルノミナラス利害相償ハサルモノアルカ故ニ遮斷ハ實務者ニ於テ極メテ精細ナル注意ヲ要ス

第三十二條 虎列拉病發生ノ初ニ於テハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルヲ要ス

一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹隘ニ

シテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二 市街村落ノ一部ニ於テ該患者陸續發生シ漸次他ニ傳播スルノ恐アルニ方リ地方長官ハ交通遮斷施行ヲ以テ病毒ノ蔓延ヲ防キ得ヘキ認トムル場合ニ於テハ土地ノ狀況ニ依リ傳染病豫防規則第十五條ニ從ヒ經伺ノ上其局部ヲ遮斷ス

第三十三條 交通遮斷ヲ施行シタル場合ニ於テハ其見易キ標記ヲ貼シ遮斷ノ區域ヲ明示スルヲ要ス

第三十四條 遮斷ヲ實施シタルトキハ郵便物日用品ノ類ハ相當ノ取扱人ヲ設ケテ其用ヲ辨セシムヘシ

第三十五條 遮斷部内ニ在ル者ハ常ニ身体ヲ清潔ナラシメ衣類夜具ハ日光大氣ニ曝シ垢レタル衣類ハ屢々洗濯セシムヘシ若シ着換ナキ者アレバ相當ノ方法ヲ設ケテ之ヲ爲サシムルヲ要ス

第三十六條 遮斷部内ノ家屋ハ戸障子ヲ開キ室内常ニ日光大氣ヲ通セシムルヲ要ス

第三十七條 遮斷部内ハ時々醫員ヲシテ患者ノ有無ニ注意セシメ下痢若クハ吐瀉ノ患者アリタルトキハ其吐瀉物汚染物ハ虎列拉患者ノモノト同様ノ消毒ヲ爲シ又殊ニ飲食物ニ注意セシムルヲ要ス

第三十八條 患者ノ吐瀉止ミ或ハ死亡シ或ハ之ヲ他ニ移シタル日ヨリ起算シ五日ヲ經過シテ異常ナキトキハ遮斷ヲ解クヘシ



第七章 消毒藥ノ種類及消毒ノ方法

消毒法ハ消毒藥ノ種類、用量、配伍等其當ヲ得サルトキハ消毒ノ効ナキノミナラス消毒濟ノ安心ヨリシテ其後ノ注意ヲ缺キ却テ病毒ノ蕃殖ヲ逞フセシムルノ憂ナシトセム故ニ主務吏員ニ於テハ其藥力ノ病毒ヲ殲滅シ得ヘキ適當ノ種類用量ニ從ヒ決シテ石炭酸ノ臭氣硫酸ノ沸騰等其現像ヲ皮相シテ消毒ノ濟否ヲ斷定スルノ不注意ナキヲ要ス

第三十九條 消毒藥ノ種類及消毒ノ方法左ノ如シ

- 一 強石炭酸水 石炭酸五分 水百分 ハ消毒後使用スル衣類器具等ニシテ變色毀損ヲ忌ムモノ、消毒ニ用ヒ又稀硫酸 酸五分 水百分 乏シタル場合ニ於テハ吐瀉物、糞池及其周邊ノ消毒ニ用フ
- 石炭酸ヲ溶解スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水一分ヲ加ヘ振蕩シテ澄明ノ液ト爲シ徐々ニ水ヲ注キツ、攪拌スレハ一時濁濁ヲ生シ遂ニ其水量二百分ニ達スルニ至リ全ク溶解シテ澄明ノ液トナル是即強石炭酸水ナリ但温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ
- 弱石炭酸水 石炭酸二分 水百分 手足等ノ拭淨「スプレー」等ニ用フ此液ハ強石炭酸水一分ニ水一分五厘ヲ加ヘテ之ヲ製ス
- 一 稀硫酸 硫酸二十分 水百分 ハ吐瀉物、糞池及其周邊、下水其他總テ變色毀損ノ憂ナキモノ、消毒ニ用フ其價廉ニシテ消毒ノ効較著ナルモノトス
- 稀硫酸ヲ製スルニハ百分ノ水ヲ取リ絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸二十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス稀硫酸ヲ糞池ニ入ルレハ

沸騰ヲ起シ糞便流溢スルノ恐アリ依テ糞便多量ナルトキハ其半量ヲ他ノ器ニ移シ各別ニ消毒スヘシ

- 一 格魯兒石灰水(即鹽化石灰水) 格魯兒石灰四分 水百分 ハ芥溜、下水、床下、土間ノ消毒ニ用フ本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

- 一 昇汞水 昇汞一分乃至二分 稀硫酸三分 水百分 ハ吐瀉物ニ汚染シタル物品ニシテ燒却スヘキモノ床下及屍體ニ係ル消毒ニ用フ但糞池及吐瀉物ニ用フヘカラス

本品ハ猛毒ニシテ且無色無臭ナルヲ以テ使用者ノ不注意ニ由リテハ大害ヲ醸スコトアリ此故ニ使用ノ際殊ニ注意スヘシ且飲料水ニ滲透スヘキ場所ニ決シテ撒注スヘカラス

本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加フレハ藍色ノ水ト爲リ一見シテ昇汞水ナルヲ知ルヲ得テ安全ナルヘシ尙此他昇汞水ノ効力ヲ失ハサル色素ヲ用ヒ着色スルモ妨ナシ

本品ハ磁器又ハ桶ニ貯フヘシ金屬ノ器ニ貯フヘカラス

- 以上ノ各消毒藥ニハ「劇シキ藥ナリ飲ムヘカラス」ト票記スヘシ
- 一 濕熱消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ一時間以上熱湯ニ浸漬シテ密蓋シ又ハ熱湯ニテ三十分時間以上煮沸シ又ハ攝氏百度以上ノ蒸氣ニテ三十分時間以上蒸騰スヘシ
- 乾熱消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ攝氏百度以上ノ熱ニ觸レシムルコト四十分時間以上ナルヘシ本法ハ消毒ノ土使用スヘキ物品ニシテ熱ニ堪ヘ能フモノ、消毒ニ用フ



- 一 亞硫酸薰蒸ハ室内ノ消毒及色ノ變セサル衣類器具等ノ消毒ニ用フ
- 第四十條 虎列拉患者ノ吐瀉物及汚染物ハ左ノ方法ニ基キ消毒法ヲ行フヘシ
- 第一 患者ノ吐瀉物ニハ其四分一ノ稀硫酸ヲ混シテ攪拌スヘシ又汚染物ニシテ消毒後使  
用スヘキモノニハ強石炭酸水ヲ注クヘシ其用量ハ物品ニ浸潤スルヲ度トス
- 第二 患者ノ通ヒタル便所ニハ糞便四分一ノ稀硫酸ヲ灌キ攪拌シ糞便ハ汲取ヲシメ燒却  
埋却ノ手續ヲ爲スヘシ但汲取ノ後糞池及其周邊ニハ尙充分ニ消毒藥ヲ灌クヘシ
- 第三 大糞池若クハ肥料溜等多量ノ糞便ヲ貯フル場所ニ患者吐瀉シ若クハ吐瀉物ヲ投棄  
シタルトキハ凡其糞量四分一ノ稀硫酸ヲ混シテ能ク攪拌シ尙其内面及周圍ニ普ク  
稀硫酸ヲ撒注スヘシ
- 第四 該病家及近傍ノ下水芥溜又ハ土間椽先キ等吐瀉物ヲ放下シ又ハ吐瀉シタルノ懸念  
アル場所ニハ稀硫酸、格魯兒石灰水等ヲ灌注シテ攪拌シ若クハ撒布シ塵芥等ハ燒  
却スヘシ
- 第五 吐瀉物受器及運搬器ハ昇承水又ハ強石炭酸水等ヲ灌注シテ洗淨シ該運搬人夫ノ衣  
類ハ之ヲ貸與シ其衣類ハ乾濕熱瀉又ハ強石炭酸水消毒ヲ行ヒ其手足ヲ弱石炭酸水  
ニテ拭淨シテ自己ノ衣類ト更ヘシムルヲ要ス
- 第六 吐瀉物ニ汚染シタルモノニシテ其燒却スヘキ物品大畧左ノ如シ
- 一 患者ニ被覆シタル衣類、臥具、蚊帳、蓆及ヒ其平臥シタル場所ノ疊等吐瀉物ニ汚染  
シタルモノ
- 二 看病人及同室者ノ衣類等ニシテ吐瀉物ニ汚染シタルモノ  
右ノ物品ト雖モ真正ノ裝置ナル乾濕熱瀉消毒ヲ行ヒ又ハ一時間以上煮沸シタルモ  
ノハ之ヲ使用スルモ妨ナシ
- 第七 家屋ノ消毒手續左ノ如シ
- 一 患者ノ居室及其他消毒ヲ必要ト認ムル室ハ之ヲ密閉シ疊ヲ上テ亞硫酸薰蒸<sup>ハ疊間ニ  
目ノ割合ヲ以テ三ヶ所ニ分チ燃  
燒シ少クモ二時間ヲ放置スヘシ</sup>ヲ行ヒ若シ床及床下ニ吐瀉物滲漏シタルトキハ昇承水又  
ハ格魯兒石灰水等ヲ充分ニ灌クヘシ但同室内ニアリタル疊其外諸物品器具ハ同時  
ニ該薰蒸ヲ以テ其消毒ヲ了スヘシト雖モ鐵屬製器及時計類並ニ色ノ變スヘキ物品  
器具ハ之ヲ取除キ強石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ
- 二 薰蒸後室内ヲ掃除シ塵芥ハ皆燒却シ諸物品器具疊建具等ハ室外ニ出シテ日光大氣  
ニ曝シ而シテ弱石炭酸水ヲ以テ各所ヲ拭淨スルヲ要ス以上了リタルトキハ各室ヲ  
開放シ日光大氣ヲ通セシムヘシ
- 三 室内ノ構造裝飾等亞硫酸薰蒸ノ爲メ損傷ヲ來スヘキ虞アル場合ニ於テハ丁寧ニ強  
石炭酸水ヲ以テ拭淨シ且同室内ニアリタル物品器具ハ強石炭酸水ヲ以テ消毒シ數  
日開放シテ日光大氣ヲ通シ家人ノ起臥ヲナサシメサルヲ要ス
- 第八 病家ニ出張シタル主務吏員、人夫等ノ足袋、靴、草履等ハ相當ノ消毒ヲ爲スニ怠ラ

- 甲 編 虎列刺病豫防消毒心得
- 七十三



サルヲ要ス

第九

患者發病前交通シタル家又ハ病家ニ交通シタルモノ、家ニシテ消毒ヲ必要ト認メタル場合ニ於テハ左ノ消毒ヲ爲スヲ要ス但五日以上ヲ經過シ傳染ノ懸念ナシト認ムルトキハ之ヲ行ハサルモ妨ナシ

一 便所ニハ稀硫酸等ヲ撒布スルコト

二 家族ニハ悉ク入浴若クハ行水ヲ爲サシメ用ヒ居リタル衣類ハ之ヲ着更ヘ洗濯セシムルコト

第十 患者ト同家屋ニアリタル者ハ該患者ヲ避病院ヘ隔離スルカ若クハ死亡シテ屍体ヲ

取片付ケ若クハ全治シタルトキハ各自ノ衣類ニシテ病毒付着ノ疑アルモノハ之ヲ消毒シ入浴若クハ行水ヲ爲シテ身体ヲ清潔ナラシムヘシ

第十一

日本形船艀ニ於テ患者死者アリタルトキハ其吐瀉ヲ爲シタル場所ニ昇汞水又ハ強石炭酸水ヲ注キテ充分消毒ヲ爲シタル上吐瀉物ニ汚染シタル物品ハ本條第六項ニ據リ處置シ屍体ハ一般ニ水若クハ海水ヲ以テ叮嚀ニ洗濯スヘシ

第十二

瀟車ニ於テ患者死者アリタルトキハ其吐瀉物ニ強石炭酸水ヲ注キ灰砂ノ類ヲ其上ニ撒キテ之ヲ器物ニ移シ取り焼却シ其場所ニハ昇汞水又ハ強石炭酸水ヲ注クヘシ

第十三

死者取扱ハ其死体ニ被ヒタル蒲團又ハ衣類ニ昇汞水ヲ充分ニ撒キ次ニ其蒲團等

ヲ除去若衣ノ上ヨリ尙充分ニ昇汞水ヲ撒キ之ヲ棺ニ入ル、ニハ焼却スヘキ衣類或ハ襪襪等ニ昇汞水ヲ浸シタルモノヲ死者ノ肛門部ニ敷クヘシ又棺ト死体トノ間隙アル所ニハ成ルヘク昇汞水ヲ浸シタル襪襪等ヲ燒却スヘキ衣類等ヲ用フルハ尙可ナリ以テ諸メ物ト爲スヘシ

第四十一條

消毒藥ハ病毒ヲ消滅スルニ緊要ノモノナレハ流行時ニ方リ該患者ナキ故ニ徒ラニ石炭酸水ヲ撒布シ又ハ亞硫酸蒸ヲ爲シ又ハ通行人ニ石炭酸水ヲ撒注スルカ如キハ空ク消毒藥ヲ徒費スルノミニテ更ニ其効ナキモノナリ寧ロ其消毒藥ヲ備置キ下痢若クハ吐瀉スル者アル場合ニ於テ直ニ便所ニ之ヲ注キテ消毒スルコト極メテ必要ナリトス

第八章 消毒の清潔方

一 局部ニ數人ノ患者ヲ續發シ傳播ノ景况著キトキハ其部分ヲ畫シテ消毒の清潔方ヲ施行スルヲ可トス

第四十二條

下水ハ稀硫酸又ハ格魯兒石灰水ヲ灌キ消毒シタル後水或ハ海水ヲ以テ洗濯シ其疏通ニ注意シ汚泥ヲ阻滯セシメサルヲ要ス

第四十三條

芥溜ニハ先ツ格魯兒石灰水等ヲ撒布シテ之ヲ取除キ他ノ安全ナル場所ニ運搬シ其跡ニ又格魯兒石灰水等ヲ撒布シ置クヲ要ス

第四十四條

糞便ハ稀硫酸ヲ加ヘテ之ヲ汲取リ他ノ安全ナル場所ニ運搬シ糞池及其周邊ニハ稀硫酸ヲ注キ置キ爾後時々消毒藥ヲ撒布スルヲ要ス







トヲ得

- 一 課員ノ派出ヲ要スルトキハ部長ニ對シ之ヲ申陳スルコトヲ得
- 一 主掌ノ事務ニ付テハ他ノ部長若クハ事輕易ニ屬スルモノハ郡區役所ヲ宛照會往復スルコトヲ得
- 一 摺密課ハ職務ニ關シテハ直接知事ノ命ヲ承ケテ從事ス
- 一 每部所屬各課ノ分科及主管ノ條項ヲ定ムル左ノ如シ

第一部

議事課

議事掛

- 一 府會區部會郡部會及常置委員會ノ事
- 二 會議ニ發スル議案並精算報告及諮問按調理之事
- 三 地方稅及備荒儲蓄金收支ノ事項ヲ審査スル事
- 四 地方稅爲替方ニ關スル事
- 五 地方稅及備荒儲蓄ノ財產ニ關スル事
- 六 備荒儲蓄米穀監守ノ事
- 七 區町村會ノ事
- 八 區町村費審査ノ事
- 九 郡區町村共有財產ニ關スル事

十 郡區町村負債ニ關スル事

十一 警察監獄郡區役所府立學校出納監査之事

雜務掛

- 一 課中事務統計ニ關スル事
- 二 帳簿整理ノ事
- 三 諸文書授受ノ事

庶務課

庶務掛

- 一 名勝地古跡公園地等ノ事
- 二 營業ニ關セサル會社ノ事
- 三 賞典ニ關スル事
- 四 戶長進退ニ關スル事
- 五 他ノ課ニ屬セサル事務調理ノ事
- 六 遺留品財產處分ニ關スル事
- 七 後見人ニ關スル事
- 八 登記所ニ關スル事
- 九 公証割印簿ニ關スル事